

Journal of IPCs

vol.38

<https://www.cc.oita-u.ac.jp/journal/vol.38.pdf>



巻頭言

情報基盤センター広報誌vol.38の
発行に寄せて / 学術情報拠点長 古城和敬

教員紹介

医学情報センター長に就任して / 三宅秀敏
着任にあたって / 安徳恭彰
医療情報部配属にあたって / 下村剛

研究紹介

Webトラフィック検査のためのサンドボックスの
運用結果について / 吉田和幸、吉崎弘一、安徳恭彰
ふせん、テキストハイライト、ワークシート機能を
持つ学習支援システムの開発 / 吉崎弘一

サービス紹介

新しい無線LANサービスとしてのeduroam

業務報告

- 業務記録
- Moodle操作説明会
- 統計情報
- ネットワーク/システム構成図

委員会名簿

図書館紹介

予約できる図書館施設

センター利用案内

- 無線LANアクセスポイント配置マップ(旦野原)
- Moodleよくある質問と回答
- 他…



2017年3月に更新した
基盤情報システム サーバ/基幹LANスイッチ



大分大学学術情報拠点 (情報基盤センター・医学情報センター)

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
情報基盤センター <https://www.cc.oita-u.ac.jp/>

〒870-5593 由布市挾間町医大ケ丘1-1
医学情報センター <http://www.med.oita-u.ac.jp/mic/>

発行 2018年2月 情報基盤専門委員会広報部会

情報基盤センター広報誌 vol.38 の発行に寄せて

学術情報拠点長 古 城 和 敬

昨年 10 月 1 日より、学術情報拠点長を拝命しました。4 か月が経過して、まだまだ勉強中ですが、利用者のニーズをくみ取り、困ったときに頼りになる拠点として信頼されるよう機能強化を図ってまいります。前任の岸田拠点長と同様によりしくお願いいたします。

この広報誌に寄稿するにあたって、「情報」とその周辺についての私の経験を少し振り返ってみました。

私が大学院生の頃、実験や調査のデータ処理は、大学の計算機センターに行って、穿孔機（コンピュータ用のカードに孔をあける機械）でデータを入力し、分析プログラムとともにカードリーダーにとおして結果を得たものでした。それも、すんなりとカードリーダーがとおしてくれることは稀で、読み取れないカードやミスパンチのカードが必ずあってその都度作業が中断したものでした。

しかし、私の恩師の時代は、手動の計算機であったとのことで、学会に向かう夜汽車にその計算機をもち込んでデータ分析した苦労話などを聞くと、こうしたカードリーダーの‘厳しさ’も受け容れなければなりません。

話は戻りますが、大学院当時は、実験のデータ記入表や調査の質問紙の作成においても、和文タイプで一字ずつ活字をひろい出す骨の折れる仕事でした。

本学に着任してまもなく教室にオールインワンのコンピュータが導入され、8 インチのフロッピーディスクでしたが、ワープロ機能（JWORD）の活用でいくらか仕事のはかどった思いがありました。未熟な使い手ではありましたが、なによりも自分は最新機器と苦闘しているという自負もあったように思います。

さすがにいまは 8 インチのフロッピーディスクは手元に残っていませんが、3.5 インチの方は、当時の論文や本の執筆、授業資料の作成などで苦労した思い出も付随してなかなか捨てがたく、研究室の片隅に眠っています。

科学技術、とりわけ情報分野の進歩からすると、当時といまとは隔世の感があります。現在も ICT（IT）から IOT や AI の時代到来。こうした背景の中で、2020 年からは小学校でもプログラミング教育が必修化されることになりました。

大変革の、これから先が見通せない時代がやってきます。もうその只中にいるのかも知れません。私たちは、学生の皆さんがそうした時代を生き抜き自己実現を図るために、大学の教育研究を深化させるとともに、それを支える情報基盤を充実・発展させるよう努めてまいりたいと考えています。

医学情報センター長に就任して

三宅 秀敏

2017年4月から医学情報センター長に就任しましたので、一言ご挨拶を申し上げます。2008年4月に大分大学に学術情報拠点（旦野原及び挾間キャンパスの図書館、情報基盤センターと医学情報センターを統合）ができるまでは、挾間キャンパスにおいて医学情報センターと医療情報部（病院情報管理システムと病院情報ネットワークシステムの運営管理）は一体として両方の管理運営を担当していました。学術情報拠点発足後、医学情報センターは学術情報拠点に属することになり、医療情報部とは全く別組織となりました（同じ建屋の医療情報棟に同居はしていた）。

挾間キャンパスの利用者から、医学情報センターと医療情報部が同じ建屋にいただけではなく以前のように協力していける体制を要望されました。前医学情報センター長（教授）の退官を機に医療情報部長が医学情報センター長兼任となり、医学情報センターの業務を主に担当する安徳恭彰氏を医療情報部准教授として迎え医学情報センター兼任としました。また災害対策副室長の下村剛准教授も医療情報部に迎えて医学情報センター兼任としました。

医療情報部と医学情報センターは今も別組織ではありますが、教員を兼任とすることで医療情報部が担当する病院LANと医学情報センターが担当する学内LANの連携がとりやすくなりました。今後地域医療機関間の医療情報のオンライン共有は益々重要になりますし、疾患・状況によって遠隔診療も進められます。医学研究においてはオンラインでのデータ提出が今後増えると思われますし、医師の技術向上にテレビ会議システムを使って国内だけでなく国外に向けての技術指導も始まっています。新たな体制のおかげで、これらの要望にできる範囲で対応しています。

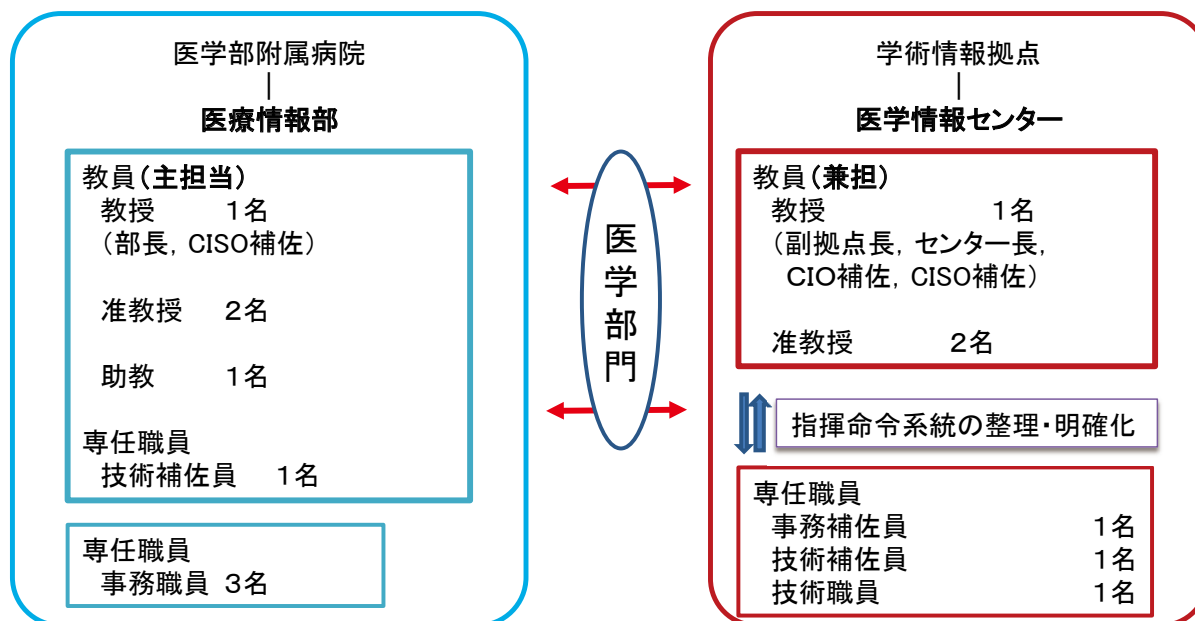
医療情報部と医学情報センター間における
設置部局の壁を越えた教員・業務の集約化

特色

- ・ 医療情報所属の教員が医学情報センター教員を兼務
- ・ 医療情報部が、挟間地区全体のコンピュータ・システム、ネットワーク・システム、情報セキュリティに責任を持つ

改善される機能＋期待される効果

- ・ ワンストップサービスの実現
- ・ 医学部・病院、学術情報拠点からの指揮命令系統及び実施体制の整理
- ・ 挟間地区に特化した情報Security教育の実施
- ・ 基幹LANとBUNGO等のシームレスな管理・運用に適した組織/体制の検討を可能に



着任にあたって

医学部附属病院医療情報部
医学情報センター兼任
准教授 安徳恭彰

4月より大分大学に着任いたしました安徳（あんとか）です。前任地は九州大学で、ネットワーク管理の傍、遠隔医療の促進や医療情報の標準化などに広く携わってきました。大分大学と九州大学では人の配置や、考え方も異なり、色々と新しい発見があり、それぞれの大学の良いところを吸収して、よりよい環境づくりに役立てればいいかと考えています。

私の出身は福岡県久留米市で、学生時代含め福岡県外での生活は初めてとなります。私の苗字「安徳」は、生まれ育った辺りでは比較的多いのですが、全国的に見ると珍しく、全国の苗字ランキングサイトなどでは、多い方から7000番目程度の位置付けになるそうです。7000番目といってもピンとこないかもしれませんが、町中で見かける三文判の印鑑タワー（という名称らしいです）が全国上位5000個収容とのことですので、そこから少し外れるぐらいの順番と考えるといいかと思います。

この「安徳」ですが、戸籍上は旧字の「徳（心の上に一が入る）」となっています。この一本棒が入ると姓名判断がよくなり、縁起物に弱い私は好んで使っていた時期があります。しかし昔は、市役所などの公的システムだと、一律に新字の「徳」に取りまとめられたり、「■」で置き換えられたりしました。最近は、パソコンでも「徳」が問題なく表示できる良い時代になりました。

「徳」や「徳」といった類似の情報を取りまとめて同類の扱いにする作業を標準化と言います。標準化を行うことで、集計を簡単にしたり、システムを有効に活用できるようになります。逆に、「徳」にまとめずそれぞれの文字にあわせて使い分けることを多様化と言います。多様化を行うことで、ユーザー側が使いたい文字を選べるなど自由に利用方法を選択できます。

標準化と多様化という言葉は文字に限らず色々な分野でよく聞くようになりました。標準化と多様化は、よく簡単と複雑に置き換えられますが、私にとって標準化はシステムの全貌を把握するための要素であり、多様化はユーザーに即して柔軟に対応を変えるための要素であると考えています。

情報を取り巻く考え方は日々変化しています。昔はシステムの制約上、多様化をあきらめ仕方なく標準化に従ってきましたが、現在は多様化による柔軟性を担保しつつ標準化を行い情報の利活用を進めることが求められていると考えます。「もう面倒だから、5000番目以降の苗字は『その他』でいいじゃん。」といった雑な仕事だけはしないよう、情報の取り扱いには注意を払っていきたいと思う次第です。

医療情報部配属にあたって

大分大学医学部附属病院医療情報部准教授
医学情報センター・災害対策室兼任
下村 剛

4月より医療情報部配属となった下村と申します。前所属は災害対策室で、災害対策室副室長、大分県災害医療コーディネーター、日本DMAT(統括DMAT)として、現在も活動しており、熊本地震や北部九州豪雨では現地で支援活動を行いました。災害医療もICTとは関連が深く、積極的に導入は進められている領域であり、DMATのEMISという情報システムは最新のICTが利用されています。

元々は、脳神経外科医で、昭和59年3月に佐賀医科大学を卒業、研修を終えた後、昭和61年5月大分医科大学脳神経外科に入局しました。脳神経外科として、臨床・研究を行いながら、1995年4月1日より2000年9月30日まで、大分医科大学医学部附属病院医学情報センター研究部専門委員会委員として、学術系のネットワーク(学内LAN)および医療情報ネットワーク(BUNGO)の両方のネットワークにかかわる業務に関わっていました。特に1995年から1996年にかけては、①大分県マルチメディア地域利用実験および②豊の国医療診断支援センターシステムの当時としては先進的な2つのネットワーク実験に携わり、実験を推進するメンバーの一員として活動しました。①におきましては、6Mbpsの専用線(信じられないと思いますが、現在のスマホより遅いののに使用量は月200万円でした。)を利用して、ハイビジョン画像伝送による病理診断などを行い、②におきましては、ISDN回線を利用した大分市内の複数の病院と姫島診療所を結ぶテレビ会議システムの実証実験を行いました。

2007年から2008年には、大分赤十字病院と河野脳神経外科病院において、電子カルテの導入を行いました。2012年からは大分大学救急救命センター配属となり、救命救急の第一線で活動しながら、救急領域でのICT利用を積極的に進めました。携帯電話網を利用したドクターカーからの映像情報や位置情報の伝送、12誘導モバイル・クラウド心電図伝送を、全国に先駆けて開始しました。2014年には、大分県遠隔画像伝送システム連絡協議会を立ち上げ、大分県の4つの救命救急センターと32台の救急車で構成する画像伝送システムと高精細動態管理システムの機種選定、システム構築、運用基準の制定を行い、運用しています。

研究面においては、MRIを用いた研究を継続しており、MRI装置を自分で操作して、様々な撮像シーケンスを作成することもできます。特にfMRIの解析においては、Windows、Linuxをベースとした複数の解析ソフトを駆使することが必要で、プログラミングの知識も必要とされることもあり、これらを通じて、様々なOSの最低限の知識は有しています。現在も複数の診療科のMRI研究のサポートを続けておりますが、人材育成に繋がっていきたいと思っています。

色々な顔を持っているのですが、根本にあるのはICTを医療に生かすことであり、全てに共通しています。医療のあらゆる分野においての、セキュリティと利便性のバランスを取れたICT利用、教育への応用や人材育成を行なっていきたいと思います。

Web トラフィック検査のためのサンドボックスの運用結果について

吉田 和幸¹⁾, 吉崎 弘一¹⁾, 安徳 恭彰²⁾

1) 大分大学 情報基盤センター

2) 大分大学 医学情報センター

yoshida@oita-u.ac.jp

Operation Result of the Sandbox Checking Web Traffic

Kazuyuki Yoshida¹⁾, Koichi Yoshizaki¹⁾, Yasuaki Antoku²⁾

1) Information Technology Center, Oita University

2) Medical Information Center, Oita University

概要

大分大学では、2017 年 3 月の基盤情報システムの更新に合わせてサンドボックス装置を導入した。これにより、従来のファイアウォールによる保護に加えて Web アクセスにより侵入する可能性がある malware を検知することが可能になった。本稿では、導入後 6 か月の運用状況（検知結果）について報告する。

1 はじめに

インターネットからのマルウェアの侵入を防ぐための入り口対策は重要である。大分大学では、ファイアウォール等によるセキュリティ対策に加えて、2017 年 3 月の基盤情報システムの更新[1]に合わせてサンドボックス装置(FireEye NX7500 Essential)を導入し HTTP でダウンロードされる実行形式ファイルの検査を行うようにした。本稿では、半年間のサンドボックスの運用の状況を報告するとともに、サンドボックスの有効性について考察する。

2 従来のセキュリティ対策

大分大学は、5 学部、5 研究科からなり、学生約 6000 人、教職員数約 1900 人の規模である。

学内 LAN におけるセキュリティ対策の中心は、2015 年 4 月に導入したファイアウォール(FortiGate 1500D)である[2]。本ファイアウォールにより、「学外から学内(Inbound)」, 「学内から学外(Outbound)」の両方向のトラフィックを監視し、TCP Flood 攻撃、scan 攻撃等を検知、遮断し、Web ページのアクセスに関しては、URL の分類、レーティングに基づいて、許可/遮断を決定している。ファイアウォールでは stream 型の簡易なウイルス検査を行っている。

メールに関しては、ファイアウォールで行う簡易なウイルス検査に加えて、メールゲートウェイで送信元メールサーバのレーティング情報などを用いて spam 判定を行い、その後、メールサーバでウイルス検査を行っている[3,4]。さらに PC に取り込まれたときに PC のウイルス対策ソフトウェアで添付ファイルのウイルス検査が行われる(表 1)。

これに対して、Web ページからファイルをダウンロードするときは、そのページの URL のレーティングのチェックを行い、ダウンロードされるファイルに対してはファイアウォールでは、簡易なウイルス検査を行っているが、十分ではなく PC のウイルス検査に大きく依存していた(表 2)。

3 サンドボックスの導入

Web からダウンロードするファイルを検査する装置として、サンドボックスを導入した(表 2)。サンドボックスは、ダウンロードされているファイルを取り込み、内部の隔離された環境で仮に実行してみて、そのふるまいを確認することでマルウェアを検知する。そのため、未確認のマルウェアを検出することも可能である。今回導入した装置は、隔離された実行環境として Windows 環境とともに Mac OSX 環境も持っている。

表 1. メールの多段防御対策

装置等	対策
Firewall	Inbound/Outbound port 25 Block (IP25B/OP25B) Mail Gateway が送受信するメールのみ通す
Mail Gateway	spam 対策 (Greylisting, S25R, SPF 他)
Mail Server	添付ファイルのウィルス検査
PC	添付ファイルのウィルス検査, C&C サーバとの通信の検知・遮断

表 2. Web の多段防御対策

装置等	対策
Firewall	Inbound port 80 Block (IP80B)(Web サーバ宛の通信のみ通す) Outbound は、フリー
	URL のレーティング
Sandbox (新規)	ダウンロードファイルを隔離環境で実行, ふるまい検査, C2 サーバとの通信の検知
PC	ダウンロードファイルのウィルス検査 C2 サーバとの通信の検知・遮断

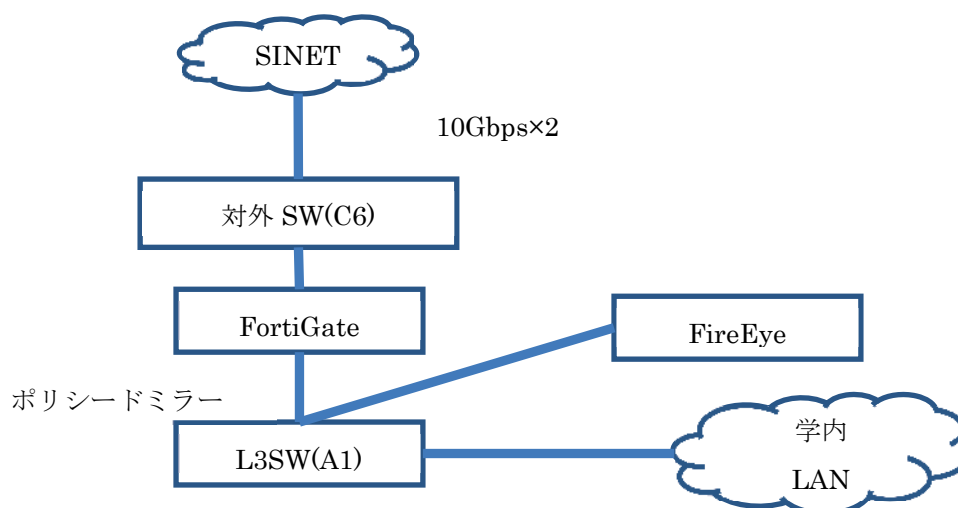


図 1. システム構成図

ファイアウォールの学内 LAN 側のインタフェースと接続する LAN スイッチのポートをミラーして、サンドボックス装置の検知用インタフェースに送っている。サンドボックス内の仮想環境で動作させるのは、80 番ポート、8080 番

ポートの http で通信される実行形式ファイルであるが、侵入した Malware と C2 サーバとの通信を検知する機能も持っているのもので、すべての TCP トラフィックと UDP の DNS トラフィックをミラーしている(図 1)。

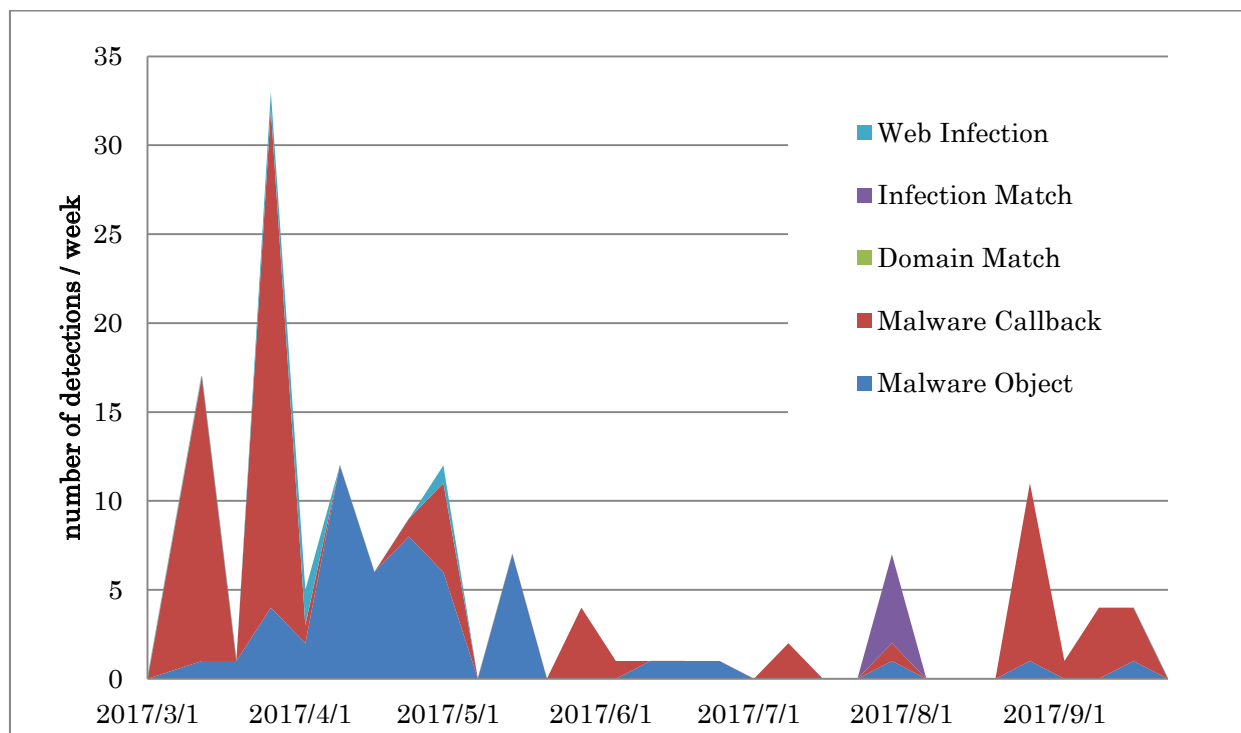


図 2. 検知数の推移

表 3. 検知数

Malware Object	Win	40	53
	Mac	4	
	非依存	9	
Malware Callback		77	
Domain Match		0	
Infection Match		5	
Web Infection		4	
Total		139	

4 サンドボックスの運用状況

サンドボックスの導入以降、2017年9月までの検知数を表3に、1週間ごとの検知数の推移を図2に示す。サンドボックス(FireEye NX7500 Essential)は、以下の5つのアラートタイプで検知を行う。

- 1) Malware Object: マルウェアと思われる実行形式ファイルを検知した。
- 2) Malware Callback: C2サーバへと思われる通信を検知した。
- 3) Domain Match: C2サーバと思われるFQDNのDNS問い合わせを行った。
- 4) Infection Match: 過去に報告実績のあるマル

ウェア感染を引き起こす攻撃が試行された。

- 5) Web Infection: web 経由での感染行為(Java, Flush player 等)が試行された可能性がある。

「Malware Object」が、サンドボックス内の仮想環境で実行し、不審な動作をした結果、検知されたものである。

表3より、Domain Match アラートは、検知されず、Infection Match アラート、Web Infection アラートは、数件検知された。大部分は Malware Object アラート、Malware Callback アラートである。これらのアラートは、情報基盤センター、医学情報センターで確認し、対処が必要であれば、利用者にダウンロードしたファイルの削除や、ファイルのスキャン等を要請している。

外部との通信を上り下りとも単一のポートへミラーしてサンドボックスに送っているので、Web トラフィックに乗って外から侵入してくる malware、内部から外の C2 サーバへの通信ばかりでなく、その逆も検知できる。学内の Web サーバに関して Malware Object の検知が5回、外から学内に向かう Malware callback アラートが30回検知された。Malware Object は、ファイルスキャンの結果、誤検知であった。Malware callback は、C2 サーバ探索のスキャンであり、

学内側の IP アドレスは未割当であった。

5 まとめ

2017 年 3 月に導入し、運用しているサンドボックス(FireEye NX7500 Essential)の設置と Malware 検知の状況について述べた。今後、誤検知の状況等をみながら自動遮断可能なものは、遮断するようにしていきたい。

参考文献

- [1] 吉田：新基盤情報システムについて, Journal of IPCs, 大分大学学術情報拠点(情報基盤センター・医学情報センター), vol.37, pp.4-7, 2017.
<https://www.cc.oita-u.ac.jp/journal/vol.37.pdf>
- [2] 吉田：ファイアウォールの更新について, Journal of IPCs, 大分大学学術情報拠点(情報基盤センター・医学情報センター), vol.36, pp.4-5, 2016.
<https://www.cc.oita-u.ac.jp/journal/vol.36.pdf>
- [3] 吉田：情報基盤センターにおける spam 対策の現状, Journal of IPCs, 大分大学学術情報拠点(情報基盤センター・医学情報センター), vol.35, pp.2-4, 2015.
<https://www.cc.oita-u.ac.jp/journal/vol.35.pdf>
- [4] 松井 一乃, 金高 一, 加来 麻由美, 池部 実, 吉田 和幸：milter の組み合わせによる低配送遅延を目指した spam 対策メールサーバの設計と導入の効果について, 情報処理学会論文誌, Vol.55, No.12, 情報処理学会, pp.2498-2510, 2014.

ふせん, テキストハイライト, ワークシート機能を持つ学習支援システムの開発

情報基盤センター 吉崎弘一

1. はじめに

本稿では、筆者らが研究開発を進めている学習支援システム LePo について、その特徴的な機能をご紹介します。これまで大分大学では、筆者が担当する授業でのみ同システムを利用し、動作検証を続けてきましたが、2018 年度 4 月からは、学内教員からの利用希望者を対象に、試験的な運用を開始することを検討しています。

学習教材や提出課題等の管理を行う情報システムを、一般に学習支援システム (LMS: Learning Management System) と呼びます。本学でも現在 (2017 年 12 月)、汎用学習支援システムとして Moodle (オープンソースソフトウェア) を、英語学習支援システムとして ALC NetAcademy Next (株式会社アルク) を運用しています。以下でご紹介する学習支援システム LePo[1] (図 1) は、本学でも導入している上記 2 システムとは異なるシステムですが、汎用的な学習支援システムであり、Moodle に近い機能を持ちます。

この学習支援システム LePo は、1) 学習者主体の能動的な学習、2) 多様な教育的足場架け活動、3) システム間でのデータと機能の連携、を支援することを目的として現在も開発を続けており、2017 年 8 月からはオープンソースソフトウェアとして学外にも広く公開しています[2][3]。同システムが持つ機能的な特徴としては、1) 学習目標の明示と達成度評価、2) 学習資源へのアノテーション付与、3) 学習資源のコンテンツキュレーション支援、の 3 点を挙げることができますが、本稿ではこの 2) と 3) に関連する 3 つの機能についてをご紹介します。



図 1 学習支援システム LePo

2. ふせん機能

LePo では、教授者が予めシステムにアップロードした教材を用いて、教授活動を行います。この教材の任意のページに、システム利用者がテキストとハイパーリンクを保存することができるテキストアノテーション機能を、ふせん機能と名付けて実装しています[4](図 2)。このふせんには、記載者のみが閲覧できる「個人ふせん」と、特定コースの履修者と教授者が共に閲覧できる「コースふせん」があります。前者は個人的な学習の記録を、後者はコース内の協調活動や学習者間の教え合いを実現するため、システムに実装しています。

ページ単位のアノテーションは記載内容が散逸する懸念がありますが、LePo ではふせんのキーワード検索とレッスンノートへの自動掲載で、この懸念に対処しています。このレッスンノートは、教学の活動を記録するためのノートであり、コース内で用いる複数の教材に設定したふせん、及び後述のテキストハイライトを自動記録し、教学活動の振り返りを容易にします(図 3)。



図 2 教材のページに添付したふせん

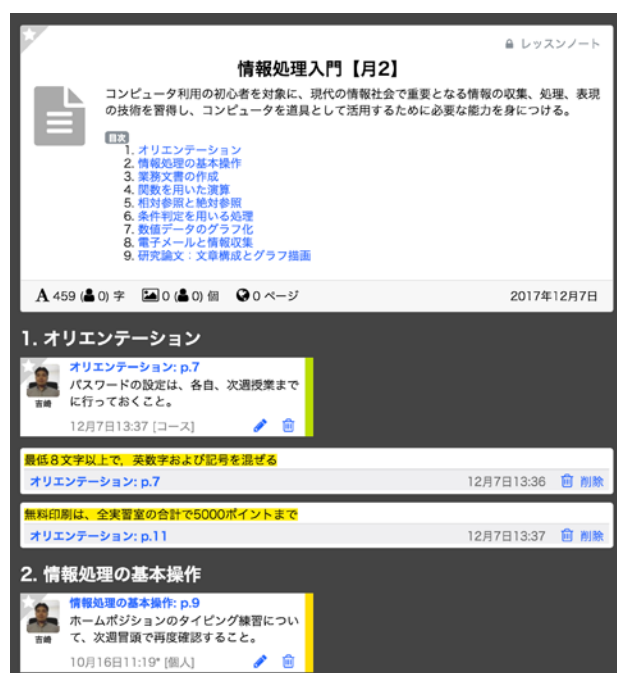


図 3 レッスンノートのふせんとハイライト

3. テキストハイライト機能

教授者が LePo にアップロードできる教材のファイル種別として、現在、画像、動画像、PDF、HTML に対応しています。これらのファイル種別の内、PDF と HTML については、利用者によるマウス操作で教材中の任意のテキストを選択することで、テキストハイライトを設定します(図 4)。このテキストハイライト機能は、個々の学習者が教材中の重要語句等をマーキングしたり、LePo を用いた対面授業時に、教授者が教材のテキストにマーキングをすることで、随時、学

習者に注目を促すことができます。また、設定したテキストハイライトは、前章で述べたレッスンノートに自動記録することで、学習の振り返りを促進します。

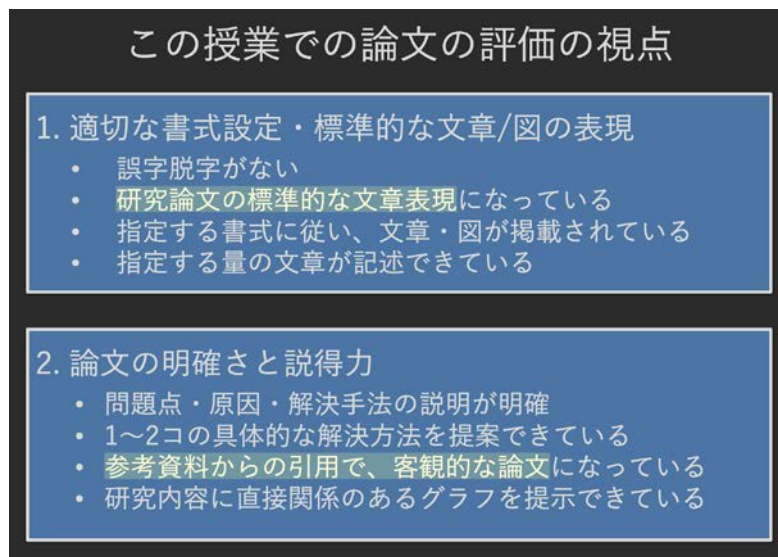


図4 PDF教材へのハイライト設定

4. ワークシート機能

Web ページ上の情報を参照した調べ学習を支援することを目的として、LePo ではワークシート機能を実装しています[5]。このワークシート機能では、教授者が予め文章や画像を挿入したワークシートを、コース内の学習者に配布し、個々の学習者がワークシートに文章を記載するなどの活動をした上で、コース内での相互評価や閲覧共有を行うことができます(図5)。

このワークシート機能の特徴として、Web ページの情報を効率的に引用することができます。Web ページの情報を引用するには、システムが提供するボタン

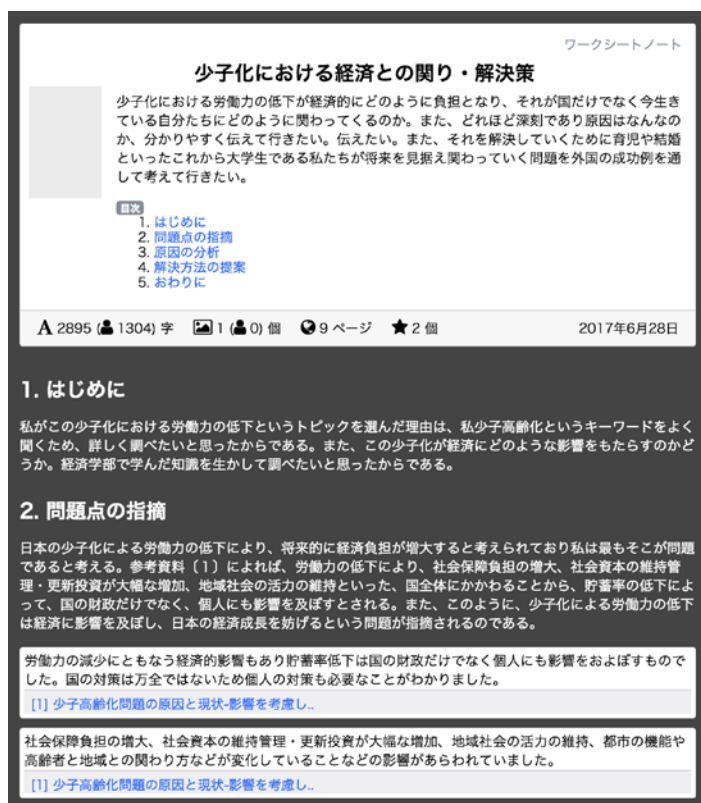


図5 学生が作成したワークシートの一例

(bookmarklet) を予めWebブラウザに登録しておきます。引用情報については、参考資料のリストをワークシート最下部にシステムが自動挿入します。同機能の活用事例としては、これまでにワークシート機能を研究論文の執筆指導時の下書き作成に用いるなどの取り組みを行っています [5]。

5. おわりに

いくつかの機能を簡単に紹介してきました学習支援システム LePo は、現在も機能の改善と追加を続けています。その一方で、Moodle のように広く利用されている学習支援システムでは標準的に実装されている、テスト機能や SCORM 教材のインポート機能などは実装しておらず、また当面実装する計画也没有ありません。LePo は用途によっては選択すること もできる学習支援システムと位置付けて研究開発しており、既存の汎用的な学習支援システムを置き換えるものではありません。

なお、LePo の今後の開発予定としては、同システムと他の情報システムとのデータ/ 機能連携を効率的にするための、Web API (Application Programming Interface) の実装拡張などを予定しています。

参考資料

- [1] “LePo”, <http://lepo.info/>
- [2] “LePo: An Open-Source Learning Management System with Text Annotation and Content Curation Functions”, Koichi Yoshizaki, Hiroshi Hotta, The IAFOR International Conference on Technology in the Classroom - Hawaii 2017 Official Conference Proceedings, ISSN: 2432-1222, pp. 21-28, 2017
- [3] “学習支援システム LePo のオープンソース化”, 吉崎弘一, 堀田博史, 情報処理学会第 79 回全国大会講演論文集, vol.4, pp.481-482, 2017
- [4] “テキストアノテーション機能を持つ学習支援システムを用いた授業実践”, 吉崎弘一, 堀田博史, コンピュータ&エデュケーション, vol.37, pp.67-72, 2014
- [5] “コンテンツキュレーション活動が文章構成に及ぼす効果の確認”, 吉崎弘一, 堀田博史, 情報処理学会研究報告教育学習支援情報システム (CLE), 2015-CLE-17(17), pp.1-5, 2015

新しい無線 LAN サービスとしての eduroam

eduroam(エデュローム)とは、教育機関がキャンパス無線 LAN を相互に利用するためのローミングサービスで、学内外の無線 LAN 接続を容易にします。本学では 2016 年秋から対応していますが、最近、利用者が増えていきますので、その特徴や使い方をご紹介します。

【従来の学内無線 LAN との違いは？】

旦野原キャンパスに設置している従来のキャンパス無線 LAN (SSID: 2010OITA1~4)では、利用するたびにユーザ認証が必要です(図 1)。これに対し、eduroam (SSID: eduroam)では、接続する機器ごとに初回接続時にユーザ認証を行えば(図 2)、それ以降の毎回の接続ではユーザ情報を入力する必要はありません。このため、素早く無線 LAN を利用することができます。なお、2 つの無線 LAN で利用するユーザアカウントは、共に統合認証アカウントです。

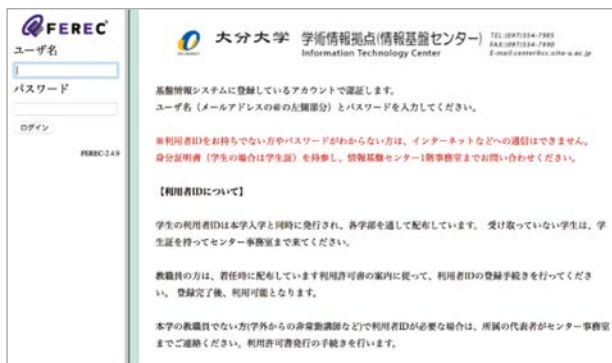


図 1 従来の無線 LAN の認証画面

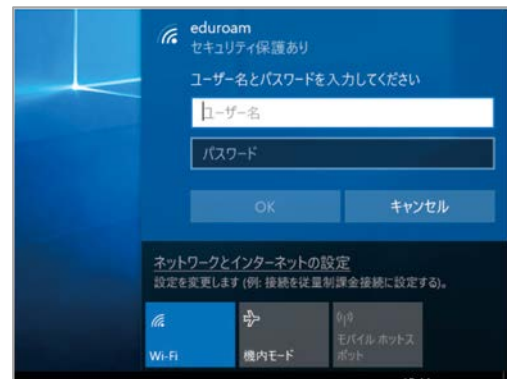


図 2 eduroam の認証画面(初回接続時)

【eduroam で何ができるの？】

eduroam に対応した学内の無線 LAN アクセスポイントに接続できるだけではなく、他の教育機関等が設置する eduroam に対応する無線 LAN アクセスポイントにも、本学の統合認証アカウントで利用できるようになります。

【どこで使えるの？】

現在、旦野原キャンパスでは情報基盤センターが管理する 90 箇所のアクセスポイントで、eduroam をご利用になれます。eduroam に対応したアクセスポイントの設置場所は、参考資料[1]の※マークがついた場所です。なお、使い方については参考資料[2]をご参照下さい。本稿「センター利用案内」の「無線 LAN アクセスポイント配置マップ(旦野原)」でも確認できます。

参考資料

- [1] 情報基盤センター キャンパス無線 LAN,
https://www.cc.oita-u.ac.jp/modules/inpico/index.php?content_id=1
- [2] 情報基盤センター eduroam,
https://www.cc.oita-u.ac.jp/modules/inpico/index.php?content_id=35

委員会／会議

平成 28 年

5 月	19 日	大学 ICT 推進協議会 2016 年度通常総会
	26 日	第 1 回学術情報拠点運営会議
6 月	24 日	第 13 回国立大学法人情報系センター協議会総会（京都工芸繊維大学）
	25 日	IOT 研究会（通算 34 回）（京都工芸繊維大学）
7 月	19 日	第 2 回学術情報拠点運営会議（メール）
	29 日	第 41 回九州大学情報基盤研究開発センター全国共同利用運営委員会
9 月	13 日	大学 ICT 推進協議会理事会（TV 会議）
	14 日	第 3 回学術情報拠点運営会議（メール）
	26 日	第 11 回国立大学法人系センター研究集会（滋賀医科大学）
	27 日	第 20 回学術情報処理研究集会（滋賀医科大学）
11 月	1 日	第 4 回学術情報拠点運営会議
	18 日	文部科学省関係機関最高情報セキュリティ責任者会議
12 月	1・2 日	第 9 回インターネットと運用技術シンポジウム（IOTS2016）（福山大学）
	14～16 日	大学 ICT 推進協議会 2016 年度年次大会（国立京都国際会館）
	21 日	第 42 回九州大学情報基盤研究開発センター全国共同利用運営委員会

平成 29 年

2 月	21・22 日	第 25 回国公立大学情報システム研究会(IS 研)総会
3 月	10 日	大学等におけるクラウドサービス利用シンポジウム 2017
	15 日	大学 ICT 推進協議会理事会（TV 会議）
	29 日	第 5 回学術情報拠点運営会議

平成 28 年度業務記録（情報基盤センター業務）

業務日誌

平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

- [4 月] 大学院への学内進学者のメール転送開始
WebClass と教務情報システム間のデータ連携を開始
WebClass に INFOSS 情報倫理 2016 コースを開設
Symantec Endpoint Protection バージョンアップ(12.1 RU6 MP4)
- [5 月] 昨年度退職者、卒業者 ID 停止
WebClass サーバ脆弱性対策(Samba,OpenSSL)
- [6 月] 昨年度退職者、卒業者 ID 削除
学認 Idp アップデート (Ver2 から Ver3)
- [7 月] WebClass バージョンアップ(Ver10.01d)
Symantec Endpoint Protection バージョンアップ(12.1 RU6 MP5)
ファイル共有システムを保存期限付きで利用開始
DEEPMail 送信トレイフォルダのメール保管期間を 180 日間に変更
- [9 月] 技術職員研修
WebClass バージョンアップ(Ver10.01g)
- [10 月] Symantec Endpoint Protection バージョンアップ(12.1 RU6 MP6)
前期離籍学生 ID 停止
- [11 月] 前期離籍学生 ID 削除
eduroam の利用提供開始
- [1 月] 平成 29 年度情報教育システム（パソコン実習室）の予約開始
第 1・第 2 実習室マイク増設
- [2 月] 定年退職予定者へメール利用についてを通知
Google カレンダー／Google ドライブの利用提供開始
新学習支援システム（Moodle）と教務情報システム間のデータ連携を開始
基盤システム更新
- [3 月] 広報発行
新学習支援システム（Moodle）の利用提供の開始
教職員対象新学習支援システム（Moodle）操作説明会の開催
AlcNetAcademy2 運用停止
AlcNetAcademy NEXT 運用開始
eduroam 対応無線 AP5 台増設
ホスティングサービスを学内サーバからさくらインターネットに移行

各種申請書受付件数

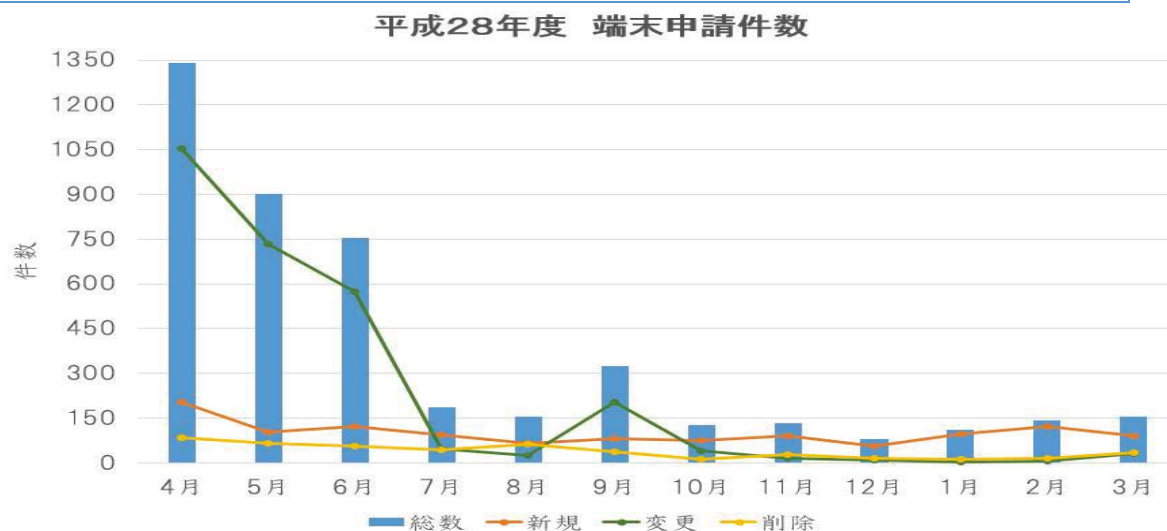
	(件数)
(1)「プリンタ利用申請書」(様式第 1 号)	97
(2)「固定 IP アドレス申請書」(様式第 2 号)	383
(3)「実習室利用申請」※Web フォーム	62
(4)「WebClass コース作成申請」※Web フォーム	20
(5)「ワクチンソフト利用申請」※Web フォーム	264
(6)「ホスティングサービス利用申請書」(様式第 3 号)	17
(7)「ファイアウォール開放設定申請書」(様式第 4 号)	29
(8)「サブドメイン名申請書」(様式第 5 号)	10
(9)「サブネットワーク申請書」(様式第 6 号)	0
(10)「無線 LAN アクセスポイント設置申請書」(様式第 7 号)	40
(11)「一時インストール申請書」(様式第 8 号)	2
(12)「メーリングリスト申請書」(様式第 9 号)	27
(13)「共通スケジュール作成申請」※Web フォーム	0
(14)「利用者 ID の利用停止申請」※Web フォーム	41
(15)「電子証明書の発行申請」※メール	1

平成 28 年度業務記録（医学情報センター業務）

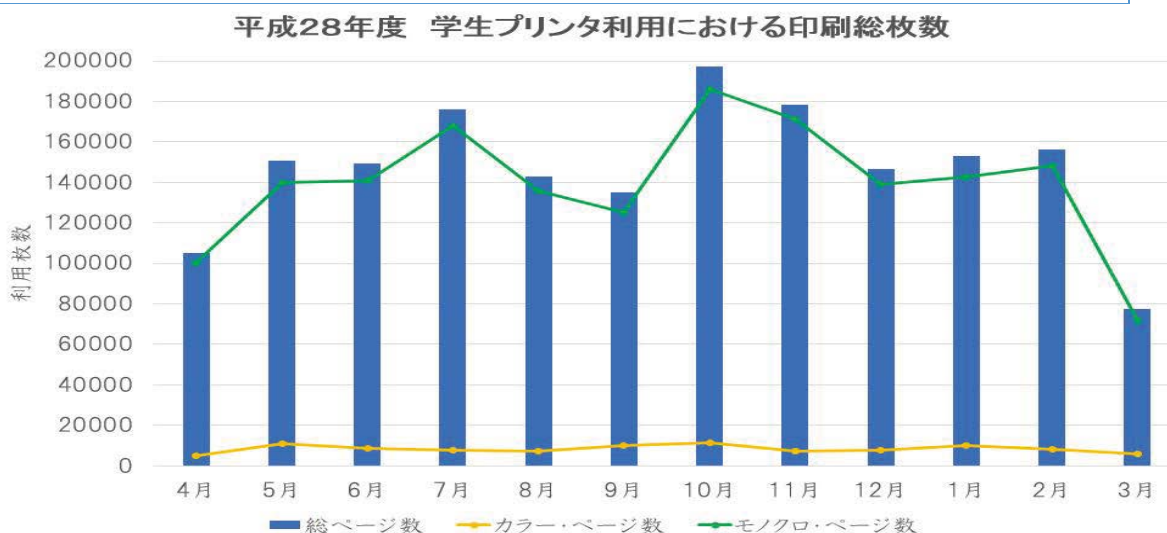
平成28年4月～平成29年3月

- [4 月] 医学科・看護学科・大学院生・研修医オリエンテーション実施
自己・標本学習室検討会
- [5 月] 臨床研究棟3階オープン機器室空調機補修
- [6 月] 看護学科学生説明会（2回目）
基盤情報システム仕様策定委員会
1年生と編入3年生へのPC等の取り扱いの説明
再リースPCメンテナンス
- [7 月] CISO会議への対応
基盤情報システム仕様策定委員会
LAN切替作業
- [8 月] 情報セキュリティ対策基本計画についての会議
基盤情報システムの入札説明会
再リースPCメンテナンス
- [9 月] 情報セキュリティ委員会
- [10 月] 編入生オリエンテーション実施
自己・標本学習室検討会
情報基盤専門委員会広報部会
CBT打合せ
- [11 月] 第36回医療情報学連合大会出席（神奈川）
CBT試験環境構築（集中動作テスト）
- [12 月] 大学ICT推進協議会2016年度年次大会出席（京都）
情報処理実習室配線工事
学生PCメンテナンス（自己学習室・標本室・学生ホール）
情報処理実習室HUB整列作業
千年カルテネットワーク接続打合せ
- [1 月] 看護学科2年生PC等の取り扱いに関する講習会
UPS搬入
CBT試験環境構築（本試験）
- [2 月] 機器更新によるフロアスイッチ入れ替え
学生用パソコンモジュール入れ替え
無線AP入れ替え
CBT試験環境構築（追試験）
- [3 月] 新学習支援システム操作説明会（Moodle）
グループウェア（Global）がサービス終了の為、停止
FireEye 説明会

平成 28 年度 端末申請件数



平成 28 年度 学生プリンタ利用における印刷総枚数



平成 28 年度 ユーザ登録件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	147	10	11	10	23	12	16	10	7	10	11	7	274
変更	60	11	8	6	5	20	7	2	5	6	8	3	141
廃止	53	1	4	5	5	5	5	3	2	3	1	2	89
計	260	22	23	21	33	37	28	15	14	19	20	12	504

平成 28 年度 ワクチンソフト申請件数

1340件

Moodle 操作説明会

2017年3月より、学習支援システムをWebClassからMoodleに変更しました。新システム運用前に、教職員を対象に、巨野原キャンパスと挾間キャンパス2か所で操作説明会を開催しました。当日は、実際に画面を操作しながら新システムを体験していただきました。

巨野原キャンパス	日時：2017年3月9日（木）13:10～14:40 場所：情報基盤センター 1階第1実習室 参加者：26名
挾間キャンパス	日時：2017年3月9日（木）16:00～17:30 場所：看護学科棟 4階自己学習室 参加者：17名

■ 講師：レゾナント・ソリューションズ株式会社 首藤様

■ 内容

1. Moodle 概要
2. コースの編集・URL リソースなど
3. レッソンの編集・受講者モードなど
4. ラベルリソース・課題リソースなど
5. 課題リソースの評定・ブックリソースなど
6. フォーラムリソース・テストリソースなど
7. 質疑応答

■ 操作説明会の様子



※当日の講習会の様子は、Moodle ログイン後の「サイトホーム」→「利用の手引き【教員用】」→「操作説明会（2017年3月9日開催）巨野原会場の動画」でご覧いただけます。

トラブル管理表(H28.4.1～H29.3.31)

発生日	完了日	区分	種別	システム	トラブル/質問	対応/回答
2016/4/1	2016/6/1	Q/A	共通	メール	DEEPMail で送信メールサイズの上限値を超えるメールを送信した場合のエラーメッセージを変更することは可能か。また、メッセージにハイパーリンクを設定可能か。なお、このメッセージは全ユーザで共通で良い。	メーカーのカスタマイズ改修が必要だった。最大送信メールサイズのエラーメッセージのみ修正を依頼し実施した。
2016/4/7	2016/4/7	Q/A	共通	proself	管理者の設定画面で、「Web 公開/受取フォルダ設定>受取フォルダのデフォルト設定」を変更して、元に戻したところ、これまでにチェックが入っていなかった設定にも自動でチェックが入った。元の初期値の状態に戻すにはどうすればよい。また、「公開先メールアドレスを制限する」のチェックをはずすと利用者にどう影響するか。	このオプションは、受取フォルダ設定画面で「メール認証を利用する」にチェックが入っていた場合にのみ適用される設定のため、利用しない場合は関係しない。
2016/4/8	2016/6/13	Q/A	挟間	瞬快	adobe reader と flash について、瞬快でアプリケーションのインストールフォルダを修復対象外にすれば、自動更新の設定を実施できるのではないかな。	導入当初はできなかったが、現在では可能だったため、マスタイメージをそのように修正した。
2016/4/8	2016/4/12	トラブル	旦野原	PC	情報基盤センター1FのPCで電源を投入してもランプが点滅するが、起動しないPCがある。	メインボード交換により正常動作を確認。
2016/4/11	2016/4/14	Q/A	共通	proself	①時限ファイルのデフォルト設定と、MailProxy の時限設定はどう関係するか。 ②既存の全アカウントに対して「Web 公開」を一括する方法を教えてください。	①MailProxy 経由でアップロードされたファイルは MailProxy の時限設定が優先される。ただし、MailProxy の時限設定を変更する場合は、システムの時限ファイルのデフォルト設定で設定した日数までが設定可能。 ②必要最低限の項目おみを指定した csv ファイルを用意することで可能。
2016/4/11	2016/4/14	トラブル	旦野原	PC	第2実習室のキーボードが1台故障。	キーボードを交換
2016/4/14	2016/4/20	障害修正	共通	メール	CSRF (クロスサイトリクエストフォージェリ) 脆弱性対策モジュールがリリースされた	修正モジュールを適用
2016/4/15	2016/4/18	トラブル	旦野原	PC	CALL 教室 1067 のマウスが故障。	マウスを交換
2016/4/15	2016/4/20	要望	共通	ウイルス対策	SEP の脆弱性が公開されている。最新バージョン 12.1.6MP4 を適用してほしい。	適用した。
2016/4/18	2016/4/20	トラブル	旦野原	PC	第1実習室、第2実習室 PC のモニター不具合。	1台はモニターを交換、もう1台はケーブルを交換。
2016/4/18	2016/6/13	トラブル	両方	PC	WindowsUpdate 適用後に、IE を起動すると「ホームページと検索設定の選択」が PC 起動のたびに表示される。	レジストリの修正で対応

発生日	完了日	区分	カテゴリ	システム	トラブル/質問	対応/回答
2016/4/25	2017/8/18	Q/A	挟間	プリント管理	①印刷の順番が前後して、他の印刷物が途中に入り込むことがある ②情報処理実習室 OKI 複合機でトナー切れがあった場合に、エラーが表示されないため、印刷が実行されてしまう。	①プリント管理システムメーカー Cozy に連絡 ②プリンタメーカー OKI がファームウェアにより対応
2016/4/27	2016/4/28	Q/A	共通	サーバ	Apache2に見つかった脆弱性は影響ないか？	DEEPMail, Webclass は未使用。 NetAcademy は Windows サーバのため対象外。
2016/5/11	2016/5/11	Q/A	挟間	ウイルス対策	SEP の Mac 版アンインストールツールがあるか？	Windows 版と Mac 版を提供。
2016/5/12	2016/5/12	トラブル	巨野原	ファイルサーバ	DX80 で Disk 障害が通知された	ディスクを交換。
2016/5/13	2016/5/17	要望	巨野原	サーバ	教育情報システムの VM 上に CentOS にて、サーバを 1 台作成して欲しい。	作成済み
2016/5/18	2016/5/19	トラブル	巨野原	PC	CALL 教室 1007 のマウスが故障。	マウスを交換。
2016/5/20	2016/6/2	Q/A	巨野原	wingnet	Wingnet でログイン状況が正しく表示されない	スタートアップ起動に不具合が発生したと考えられる。クライアントイメージのスタートアップに追加登録することで対応。
2016/5/20	2016/6/28	要望	挟間	プリンタ	複合機の管理画面へのアクセス制限をはずしてほしい	対応した
2016/5/26	2016/6/3	Q/A	共通	proself	マニュアルにしたがって、Proself のロゴ画像を変更しようとしたが、グループフォルダにファイルをアップロードすることができない。どうしたら可能か。	現在、グループフォルダを使用しない前提で設定されている。その場合のロゴのデザイン変更方法を別途提示する。
2016/6/1	2016/6/13	V/UP	共通	メール	CLOUDMARK 社静のアナチススパムエンジンのバージョンアップ、および OpenSSL ライブラリのバージョンアップが出ている。	適用した。
2016/6/7	2016/6/14	トラブル	挟間	プリンタ	標本室の Xerox プリンタのリリース端末にエラーが表示される	FelicaReader のドライバーの再インストールを実施
2016/6/10	2016/6/10	トラブル	挟間	サーバ	ブラウザのページ表示ができない現象が発生した	Sinet1 サーバの負荷が高かったためと考えられる。プロキシサービスを再起動することが解決した
2016/6/16	2016/8/10	トラブル	挟間	PC	学生端末でエラーメッセージが表示され、デスクトップが表示されない。	WindowsUpdate の影響。ファイルサーバへの接続をホスト名から FQDN に変更した。
2016/6/23	2016/6/30	トラブル	巨野原	PC	CALL 教室で録音できない端末がある	ヘッドセット不良のため交換。
2016/6/30	2016/7/1	要望	共通	ウイルス対策	SEP の脆弱性が発見されたためバージョンアップをしてほしい	SEP12.1.6 MP5 にアップデート
2016/7/8	2016/8/8	トラブル	図書館	サーバ	図書館サーバ 2 台の Openssl と Apache Struts1 の脆弱性対応を実施してほしい	実施した
2016/7/11	2016/7/11	要望	共通	メール	誤って削除したユーザのメールデータを復活してほしい	snapshot からデータの復旧を行い、既存データとのマージ処理を実施して復活させた。

発生日	完了日	区分	種別	システム	トラブル/質問	対応/回答
2016/7/12	2016/8/10	Q/A	換間	PC	エクスプローラに、デスクトップやお気に入り が二重に表示される	プロファイルの問題。修正を実施した。
2016/7/12	2016/8/10	要望	換間	PC	教室用 PC に SEP12.1.6 MP5 を適用 してほしい	適用した。
2016/7/13	2016/11/9	Q/A	換間	FW	cs からエラーメッセージが通知されている	一時的に負荷が増えた。 WindowsUpdate が影響したと考え られる。Fortigate にてマイクロソフトの Windowsupdate サーバの除外設定 を実施した。
2016/7/27	2016/12/13	Q/A	共通	メール	ユーザ削除時に、メールのデータを、残 すようにしてほしい。	適用した。
2016/7/27	2016/8/18	要望	共通	メール	メールスプールのディスク容量を増やした い。	snapshot 領域を減らして、ディスク使 用率を 96%→75%まで削減した。
2016/8/1	2016/8/1	Q/A	共通	メール	送信トレイの自動削除を管理画面から 設定したが反映されない。なぜか。	この設定は、負荷分散装置経由では なく、個々のサーバで実施する必要が ある。
2016/8/4	2016/9/15	要望	換間	ログインモ ジュール	瞬刻で WindowsUpdate 中にログイン できないように設定してほしい。	設定した
2016/8/9	2016/8/9	要望	旦野原	web	負荷分散しない URL を追加で設定して ほしい。	設定した
2016/8/9	2016/9/1	トラブル	共通	メール	DEEPMail を使って送信したメールの宛 先にアドレスが表示されない場合があっ た。	To のアドレスの中に、半角と全角の組 合せの() がある場合に、現象が発生 した。修正モジュールを適用した
2016/8/17	2016/10/11	Q/A	換間	PC	WindowsUpdate 適用後に、IE を起動 すると「ホームページと検索設定の選択」が PC 起動のたびに表示される(再発)。	レジストリの設定変更で対応した
2016/8/18	2016/8/25	トラブル	換間	PC	情報処理実習室で起動しない PC がある	メインボードを交換。
2016/8/30	2016/11/1	トラブル	旦野原	PC	Netkaleido のシャットダウンメッセージが 表示されない。	修正した
2016/8/31	2016/12/20	トラブル	換間	サーバ	www2 サーバが突然再起動し、その 後、Web サービスが起動しない。	再起動した原因は不明。起動スクリプ トを修正した
2016/9/1	2016/9/1	トラブル	換間	プリンタ	自己学習室のプリンタのリリースステーシ ョンでフェリカカードをかざしても番号を読み 込まない。	予備機と交換。
2016/9/2	2016/10/13	トラブル	換間	プリンタ	チュートリアル教室 2F のリリースステーシ ョンでエラーメッセージが表示されフェリカカ ードをかざせない。	NFC ポートソフトウェアの障害と考えら れる。ソフトウェアの更新処理を全リリ ーステーションで実施した。
2016/9/9	2016/9/12	トラブル	換間	プリンタ	情報処理実習室 Xerox プリンタのリリ ーステーションで印刷を実行したがプリン トアウトされなかった。	プリンタ LAN ボードの不良と考えられ る。LAN ボードを交換。
2016/9/9	2016/9/9	要望	共通	メール	誤って削除した受信トレイのメールを復 旧してほしい。	復旧させた

発生日	完了日	区分	カテゴリ	システム	トラブル/質問	対応/回答
2016/9/15	2016/9/15	Q/A	挟間	プリンタ	PaperCut のマイナス残高の設定値の確認手順について教えてほしい。	管理画面にて、＜オプション＞ - ＜全般＞ - 「アカウント・オプション」の「制限」が設定されたユーザ/アカウントのマイナス残高の初期値」
2016/9/20	2016/9/27	要望	共通	ウイルス対策	SEP を最新版にバージョンアップしてほしい	12.1.6 MP6 にアップデート。
2016/9/26	2016/10/4	要望	挟間	PC	PC 教室の 10 月分の Windowsupdate の連携日を現在の第 2 木、金曜日に加えて、第 1,3,4 日、月曜日を加えて欲しい。	毎週、日、月へ設定変更を実施した
2016/9/28	2016/9/30	Q/A	共通	ウイルス対策	SEP の自動アップグレード機能は Mac ではできないか？	プッシュ配信のみ可能。自動アップグレード機能は使用できない。
2016/10/6	2016/10/7	要望	共通	サーバ	Bind の脆弱性対応のパッチを適用してほしい	挟間キャンパスの DNS サーバについて適用した
2016/10/7	2016/10/7	要望	挟間	サーバ	www2 サーバのファイルサーバマウント領域を増やして欲しい	200GB 追加を実施
2016/10/11	2016/10/18	トラブル	図書館	PC	図書館業務 PC1 台から異音が出る	ディスクを交換
2016/10/18	2016/10/24	トラブル	共通	バックアップファイルサーバ	バックアップファイルサーバのディスク 1 台が赤ランプ表示	ディスクを交換
2016/10/25	2016/10/28	トラブル	挟間	PC	自己学習室の SJK-042 の電源が入らない	マザーボードを交換
2016/10/28	2016/11/1	トラブル	共通	UPS	200V UPS のうち、4 番が、バイパス動作に切り替わっている	NW マネジメントカードのファームウェア不具合が原因。通常モードへの切替えを行って復旧させた。
2016/11/9	2016/11/14	トラブル	挟間	PC	情報処理実習室の PC1 台が再起動を繰り返す	電源ユニットを交換
2016/11/10	2016/11/14	Q/A	共通	メール	DEEPMail の「新着メール自動確認設定」を有効しても問題ないか	新着自動確認を実施するとセッションタイムアウトが効かなくなる点は注意が必要
2016/11/11	2016/11/18	トラブル	挟間	PC	チュートリアル教室 2F の PC がよくハングする	再現しなかったがメモリを予防交換
2016/11/15	2016/11/18	トラブル	旦野原	PC	第 1 実習室の PC でプリンタが登録されない現象が発生	スクリプトが失敗したことが原因。スクリプトの修正で様子を見る
2016/12/14	2016/12/15	トラブル	挟間	PC	情報処理実習室の PC, SJI-70 の電源が入らない	故障部品を交換
2016/12/21	2017/1/4	トラブル	挟間	PC	標本室の PC SKH-008 が再起動を繰り返す	マザーボードおよびメモリを交換
2017/1/5	2017/1/6	トラブル	挟間	プリンタ	標本室の Xerox プリンタで部品交換後も印刷ができない	LAN ケーブルの差し込みミス。正しく差し直した。
2017/1/10	2017/6/19	トラブル	挟間	プリンタ	自己学習室の OKI プリンタ POJK-01 で印刷ができない	トレイが一つでも紙切れになると印刷ができない。Papercut 側で用紙切れを受け付けないように変更することで対応。
2017/1/16	2017/1/16	トラブル	挟間	サーバ	sinet 側のプロキシ経由で Web にアクセスできない	sinet1,2 サーバの再起動でアクセスが可能となった。負荷が上がったことが原因と考えられる。

発生日	完了日	区分	種別	システム	トラブル/質問	対応/回答
2017/1/23	2017/1/24	トラブル	共通	サーバ	BIND の脆弱性が広報されたため、アップデートをしてほしい	dns, mail, mailgw, octdns サーバのアップデートを実施
2017/1/25	2017/2/22	依頼	共通	PC	次期システム(Centos V7)に対応するためにクライアントモジュールを SSLv3 対応に変更する	巨野原, 挟間ともに適用した
2017/2/10	2017/2/13	トラブル	挟間	IDPサーバ	医学部から idp サーバに接続ができない	医学部の DNS サーバに idp の登録を追加した
2017/2/20	2017/2/21	トラブル	挟間	サーバ	医学部 ldap2 サーバのディスク 1 基が赤ランプになっている	ディスク障害のため、ディスクを交換
2017/2/21	2017/2/22	トラブル	挟間	PC	情報処理実習室の PC1 台が何も表示されない	メインボードを交換
2017/3/3	2017/3/7	トラブル	巨野原	PC	第 2 実習室教卓 PC が頻繁に固まる	念のため、メインボードを交換
2017/3/3	2017/3/7	トラブル	図書館	PC	巨野原図書館貸出用 PC の WindowsUpdate が失敗を繰り返す	Office の修復を実施することで解消した
2017/3/13 3/21	2017/8/23	トラブル	挟間	PC	医学部 PC 教室で WindowsUpdate に失敗する PC が 30 台近くある	再現性が高い PC はメインボードを交換
2017/3/14	2017/3/29	要望	巨野原	PC	実習室 PC で PDF を開く際にアプリケーション選択画面が表示されないようにしてほしい	PDF デフォルトソフト設定用ログオンスクリプトで対応
2017/3/13	2017/9/1	要望	両方	ネットワーク	メルエ、アラクスラ、HUB 等 2011 年の基盤情報システムで導入したネットワーク機器を早めに撤去して欲しい。	調整の上、撤去した
2017/3/23	2017/4/4	要望	挟間	プリント管理	新入生をプリント管理システムに登録し、ポイントを付与してほしい	対応した
2017/3/28	調査中	トラブル	共通	プリント管理	PaperCut のユーザが数百件削除された後、再登録されてポイントが 0 になっている	ログからポイントを再登録して戻した。原因不明のため、自動削除のタスクを停止して手動に変更した。
2017/3/30	2017/6/21	トラブル	共通	プリント管理	PaperCut の管理画面にログインする際、1 回目は失敗し、2 回目、3 回目でログインできるようになる。	基盤システムの負荷分散装置側の設定変更で改善した。

教室使用状況

センター1F・第1実習室（システムA） Windows8.1Pro パソコン 70+1台

平成28年度・前期

	月	火	水	木	金
1限 9:00 ～ 10:30	メンテナンス				理工・2年 機械設計製図 II 岩本
2限 10:40 ～ 12:10	理工・院1年 運動機能工学特論 岡内			理工・2年 機械数学 II 石松	理工・2年 機械設計製図 II 岩本
3限 13:10 ～ 14:40		教・2年 データ分析と統計 大隈		理工・3年 身体運動機能学 岡内	理工・3年 コンピュータプログラミング 富来
4限 14:50 ～ 16:20	理工・3年 プログラミング 水鳥		理工・2年 建築 CAD 製図 2 姫野		理工・3年 コンピュータプログラミング 富来
5限 16:30 ～ 18:00		教・全学年 情報処理入門 谷野	理工・2年 建築 CAD 製図 2 姫野	教・全学年 情報処理入門 谷野	

平成28年度・後期

	月	火	水	木	金
1限 9:00 ～ 10:30	理工・1年 建築 CAD 製図 I 重田			理工・1年 情報処理 高坂	理工・1年 情報処理演習 高坂
2限 10:40 ～ 12:10	理工・1年 建築 CAD 製図 I 重田	メンテナンス	理工・院1年 生体運動解析法特論 岡内		
3限 13:10 ～ 14:40					
4限 14:50 ～ 16:20	理工・3年 数値解析演習 小田				
5限 16:30 ～ 18:00		教・2年 教育メディアとコンピュータ 市原		教・2年 教育メディアとコンピュータ 市原	

教：教育学部・教育福祉科学部 福：福祉健康科学部 経：経済学部 理工：理工学部 医：医学部

教室使用状況

センター2F・第2実習室（システムB） Windows8.1Pro パソコン 60+1台

平成28年度・前期

	月	火	水	木	金
1限 9:00 ～ 10:30	メンテナンス	全学部・全学年 情報処理入門 吉崎	全学部・全学年 情報処理入門 吉崎		
2限 10:40 ～ 12:10	理工・院1年 流体機械特論 栗原		全学部・全学年 情報処理入門 吉崎	理工・全学年 情報処理入門 吉岡	理工・院1年 情報システム特論第1 吉田
3限 13:10 ～ 14:40					理工・1年 情報処理概論 松尾
4限 14:50 ～ 16:20	理工・院2年 情報システム特論第三 吉崎				理工・3年 Cプログラミング 池内
5限 16:30 ～ 18:00	理工・1年 電気電子工学入門 楠・水島	教・全学年 情報処理入門 谷野		教・全学年 情報処理入門 谷野	

平成28年度・後期

	月	火	水	木	金
1限 9:00 ～ 10:30		全学部・全学年 情報処理入門 吉崎	全学部・全学年 情報処理入門 吉崎	理工・1年 情報処理 高坂	理工・1年 情報処理演習 高坂
2限 10:40 ～ 12:10		メンテナンス	全学部・全学年 情報処理入門 吉崎	理工・全学年 情報処理入門 吉岡	理工・3年 生体運動制御論 前田
3限 13:10 ～ 14:40					
4限 14:50 ～ 16:20				理工・3年 機械工学実験 II 石松	
5限 16:30 ～ 18:00	理工・4年 ゼミ 吉田				

教：教育学部・教育福祉科学部 福：福祉健康科学部 経：経済学部 理工：理工学部 医：医学部

※センター3F・第3実習室（システム室C） Windows8.1Pro パソコン 10台は自習室として開放

教室使用状況

教育学部 情報教育システム室（システム D） Windows8.1Pro パソコン 32+1 台

平成 28 年度・前期

	月	火	水	木	金
1 限 9:00 ～ 10:30				教・1 年 情報処理演習 I 山下	教・1, 2 年 情報科指導法(高) 中原
2 限 10:40 ～ 12:10	教, 経, 福・全学年 初等 教育のための ICT 活用 (教養)市原, 島田, 中原	教・2 年 プログラミング言語演習 II 中島	教・1 年 基礎ゼミ (教科教育) 基礎ゼミ担当教員	教・3 年 情報科学 II 中原	教・3 年 知能情報処理 大隈
3 限 13:10 ～ 14:40		教・3 年 デザイン情報演習 山下		教・3 年 情報システム I 中原	
4 限 14:50 ～ 16:20		教・3 年 情報科授業論 中原		教・3 年 計算物理学入門 藤井 (弘)	教・2 年 コンピュータ 大隈
5 限 16:30 ～ 18:00				教・2 年 教育メディアとコンピュータ 市原	

平成 28 年度・後期

	月	火	水	木	金
1 限 9:00 ～ 10:30					教・1 年 プログラミング言語演習 I 山下
2 限 10:40 ～ 12:10					
3 限 13:10 ～ 14:40		教・1 年 プログラミングと言語 山下			
4 限 14:50 ～ 16:20		教・3 年 情報システム II 中原		教・2 年 教育情報科学 山下・大隈	教・2 年 情報科学 I 大隈
5 限 16:30 ～ 18:00				教・2 年 数値情報処理 山下	

教：教育学部・教育福祉科学部 福：福祉健康科学部 経：経済学部 理工：理工学部 医：医学部

教室使用状況

教育学部 情報教育システム室（システム E） Windows8.1Pro パソコン 32+1 台

平成 28 年度・前期

	月	火	水	木	金
1 限 9:00 ～ 10:30					
2 限 10:40 ～ 12:10		教・3 年 情報工学 中原	教・3 年 情報科授業論 中原		
3 限 13:10 ～ 14:40					
4 限 14:50 ～ 16:20					
5 限 16:30 ～ 18:00					

平成 28 年度・後期

	月	火	水	木	金
1 限 9:00 ～ 10:30					
2 限 10:40 ～ 12:10					
3 限 13:10 ～ 14:40					
4 限 14:50 ～ 16:20					
5 限 16:30 ～ 18:00					

教：教育学部・教育福祉科学部 福：福祉健康科学部 経：経済学部 理工：理工学部 医：医学部

教室使用状況

経済学部 情報処理第1実習室（システムF） Windows8.1Pro パソコン 50+1台

平成 28 年度・前期

	月	火	水	木	金
1 限 9:00 ～ 10:30					
2 限 10:40 ～ 12:10					
3 限 13:10 ～ 14:40					
4 限 14:50 ～ 16:20	経・1 年 情報リテラシー I 阿部	経・3 年 演習 I 松岡			
5 限 16:30 ～ 18:00	経・1 年 情報リテラシー I 阿部				経・2 年 中級演習 I 大呂

平成 28 年度・後期

	月	火	水	木	金
1 限 9:00 ～ 10:30					
2 限 10:40 ～ 12:10		経 会計情報システム論 大崎			
3 限 13:10 ～ 14:40	経・1 年 基礎演習 II 松岡				
4 限 14:50 ～ 16:20		経・3 年 演習 II 松岡			
5 限 16:30 ～ 18:00		経・2 年 中級演習 II 松岡			経・1 年 情報リテラシー II 大呂

教：教育学部・教育福祉科学部 福：福祉健康科学部 経：経済学部 理工：理工学部 医：医学部

教室使用状況

教養教育棟・CALL 教室（システム G） Windows8.1Pro パソコン 74+1 台

平成 28 年度・前期

	月	火	水	木	金
1 限 9:00 ～ 10:30	理工・全学年 基礎電磁気学 近藤		経・全学年 基礎英語 I 雲		
2 限 10:40 ～ 12:10	教,経,福・全学年 情報処理入門 吉崎		経・全学年 基礎英語 I 雲	教・全学年 オール・イングリッシュ 柳井	教,経,福・全学年 創造的思考法 鈴木
3 限 13:10 ～ 14:40				教・2 年 応用英語 E 柳井	
4 限 14:50 ～ 16:20	経・2 年 総合英語Ⅲ 雲				
5 限 16:30 ～ 18:00	経・2 年 総合英語Ⅲ 久保田	理工・全学年 物理学基礎 近藤		経・全学年 情報リテラシーⅡ 平川	

平成 28 年度・後期

	月	火	水	木	金
1 限 9:00 ～ 10:30			経・全学年 総合英語Ⅱ 雲		
2 限 10:40 ～ 12:10	教,経,福・全学年 情報処理入門 吉崎		経・全学年 基礎英語Ⅱ 久保田	教・全学年 オール・イングリッシュ 柳井	
3 限 13:10 ～ 14:40	理工・全学年 熱力学 近藤	福・1 年 心理学基礎実験実習 村上	教,経,医,理工,福・全学 年 インストラクショナルデ ザイン入門 鈴木	教・2,3,4 年 応用英語 E 柳井	
4 限 14:50 ～ 16:20					教・2 年 音声英語研究 柳井
5 限 16:30 ～ 18:00		経・全学年 情報リテラシーⅡ 松隈		経・全学年 情報リテラシーⅡ 平川	経・全学年 情報リテラシーⅡ 大呂

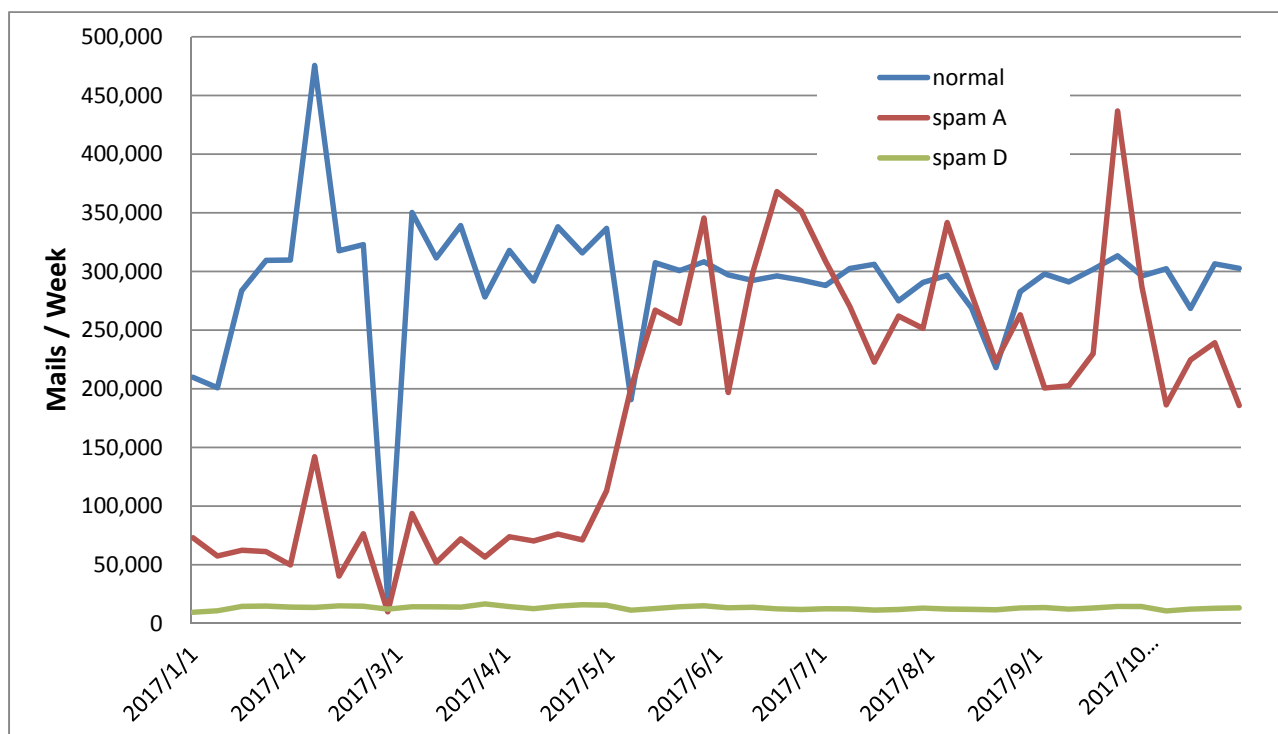
教：教育学部・教育福祉科学部 福：福祉健康科学部 経：経済学部 理工：理工学部 医：医学部

※図書館 Windows8.1Pro パソコン 10 台は自習室として開放

※各教室授業時間以外は自習室として開放

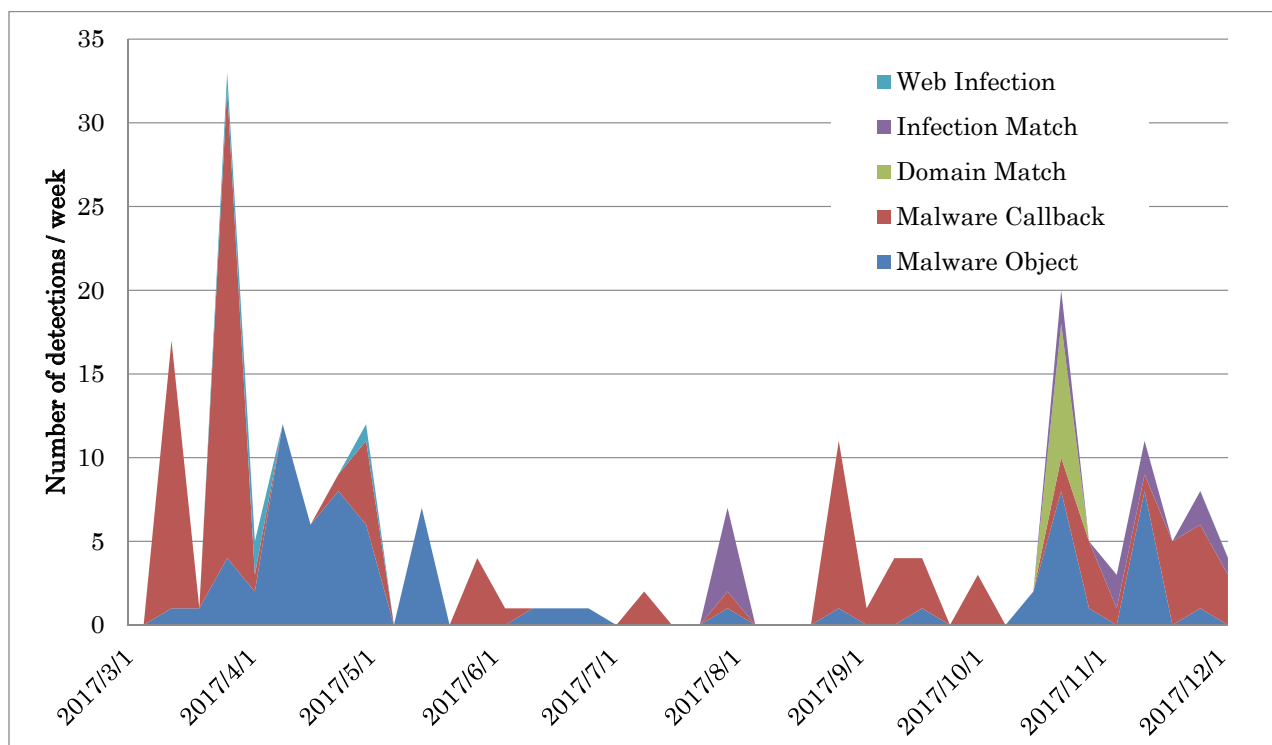
システム利用統計

メール送受信数（2017/1/1～）



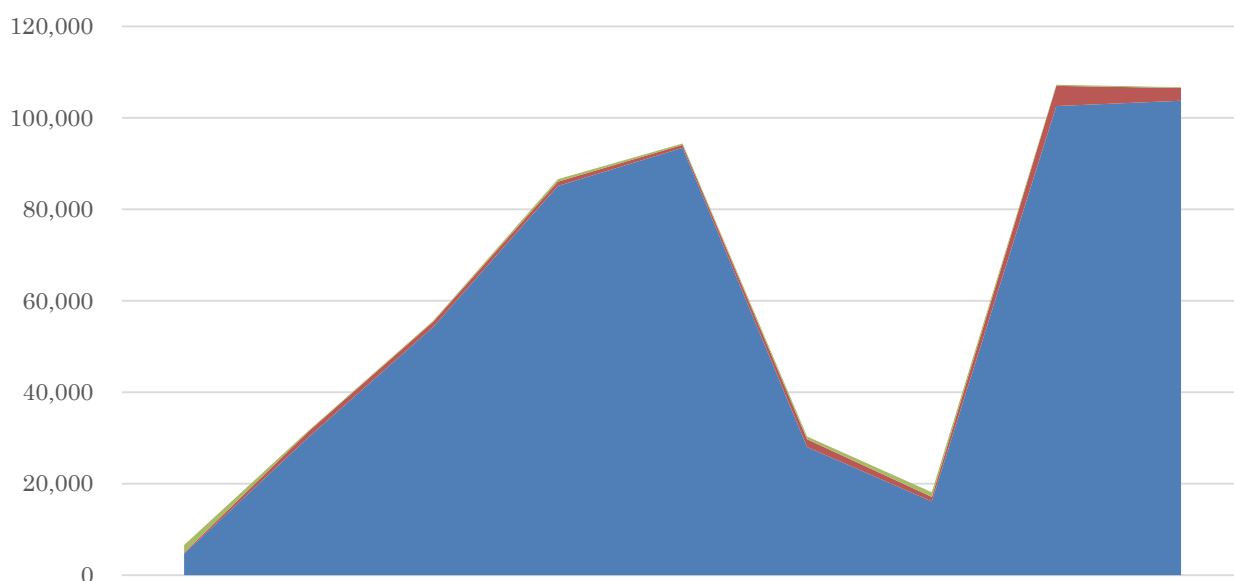
spam D: DEEPMail のスパムフィルター， spam A: その他のスパムフィルター

サンドボックス検知状況（2017/3/1～）



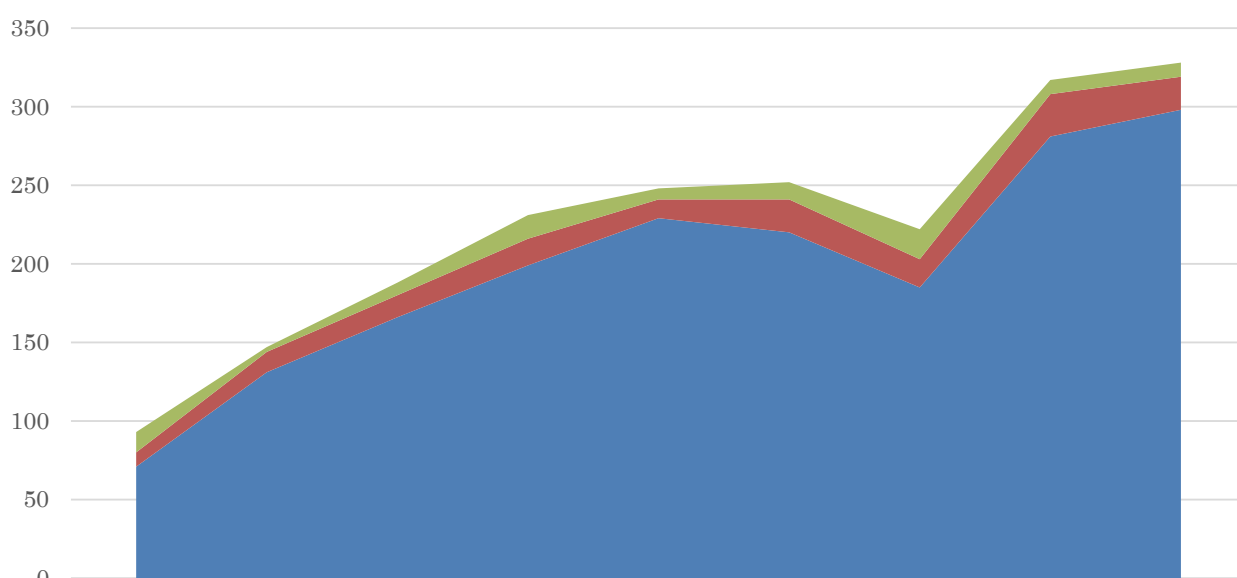
eduroam 利用状況(2017/3～)

月別利用回数（認証回数）



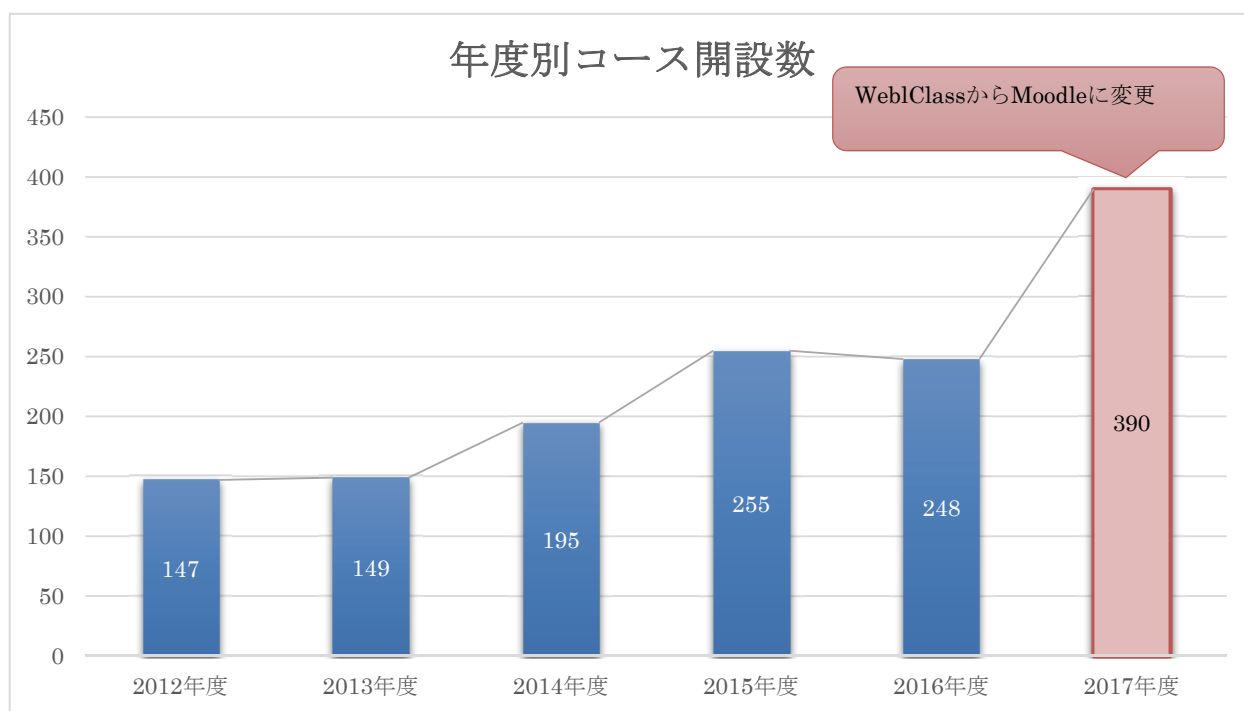
■ 学内者学内利用 ■ 学外者学内利用 ■ 学内者学外利用

月別利用者数（ID数）



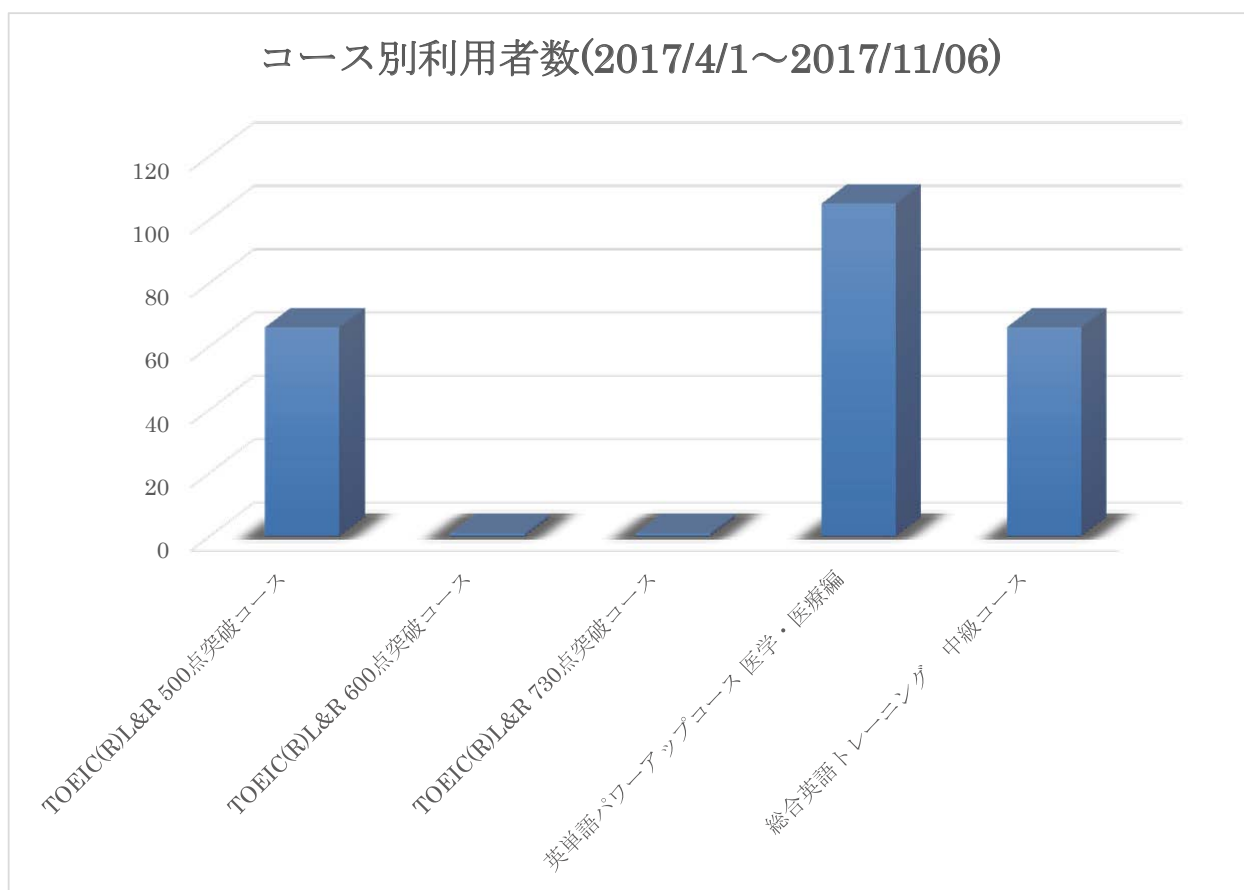
■ 学内者学内利用 ■ 学外者学内利用 ■ 学内者学外利用

学習支援システム利用状況（WebClass, Moodle）



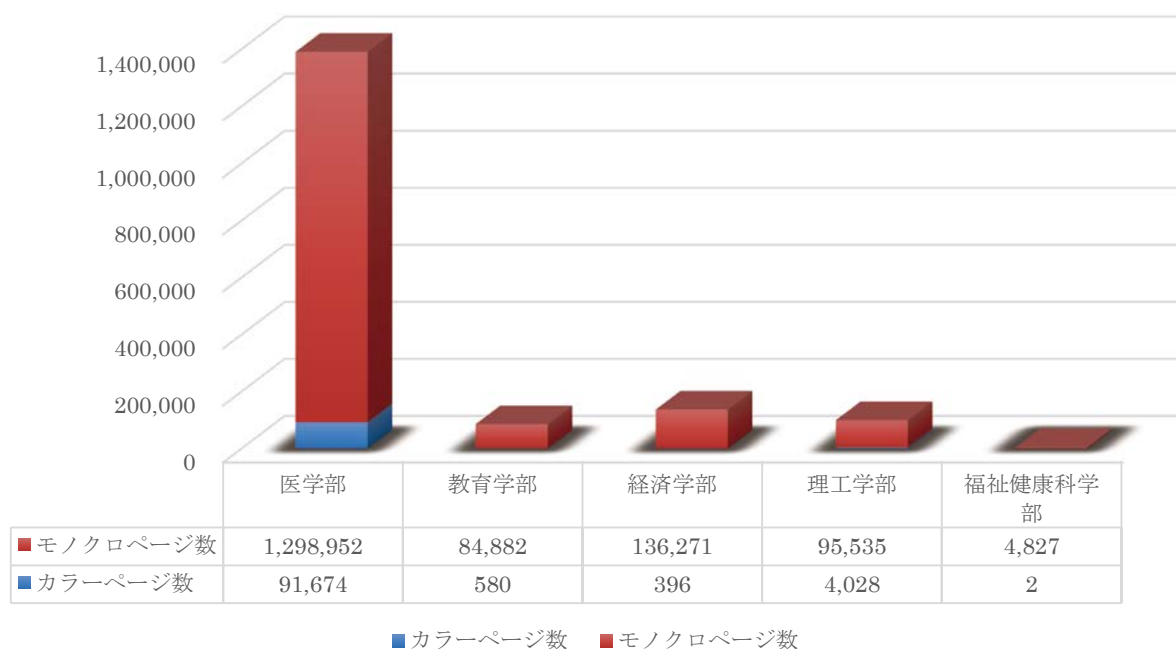
※教材が登録されているコースの数

ALC NetAcademy 利用状況

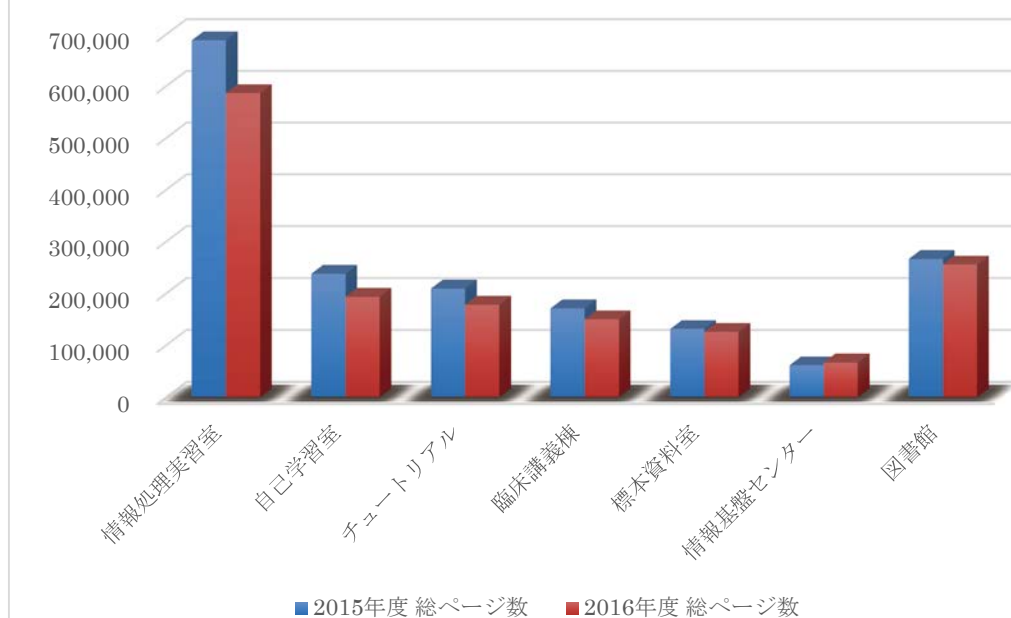


プリンタ利用状況

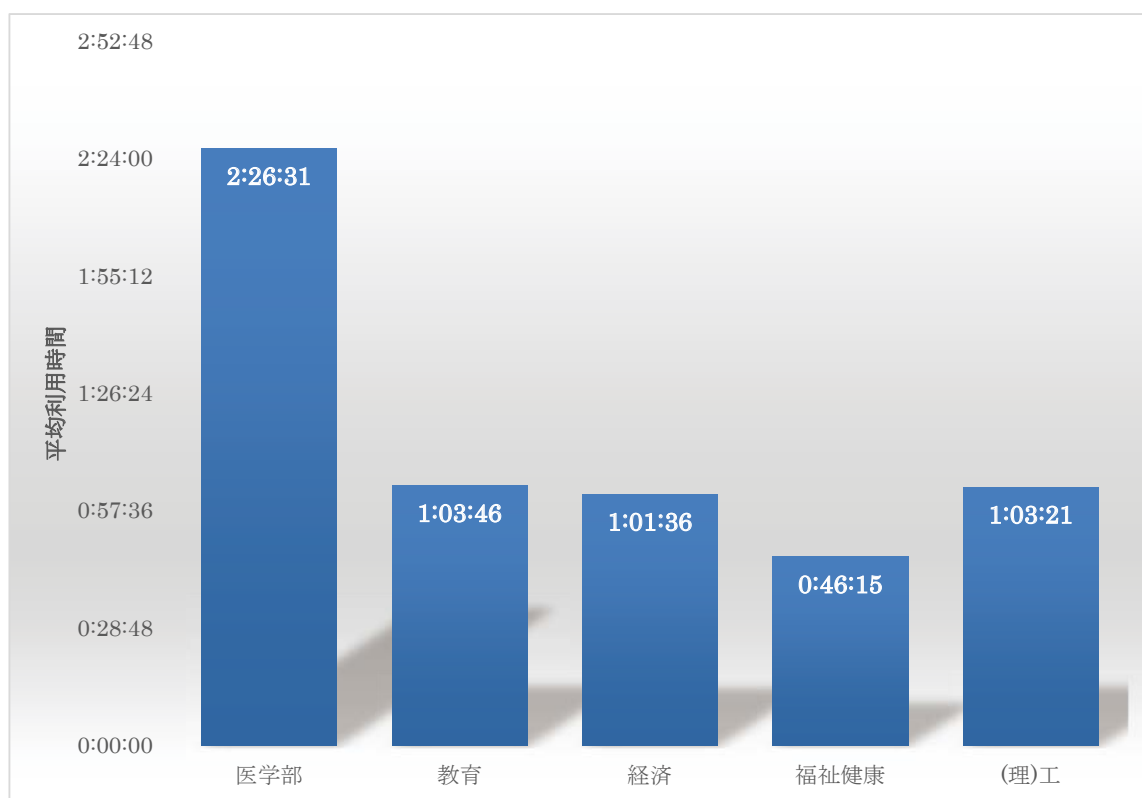
学部別印刷枚数-2016年度-



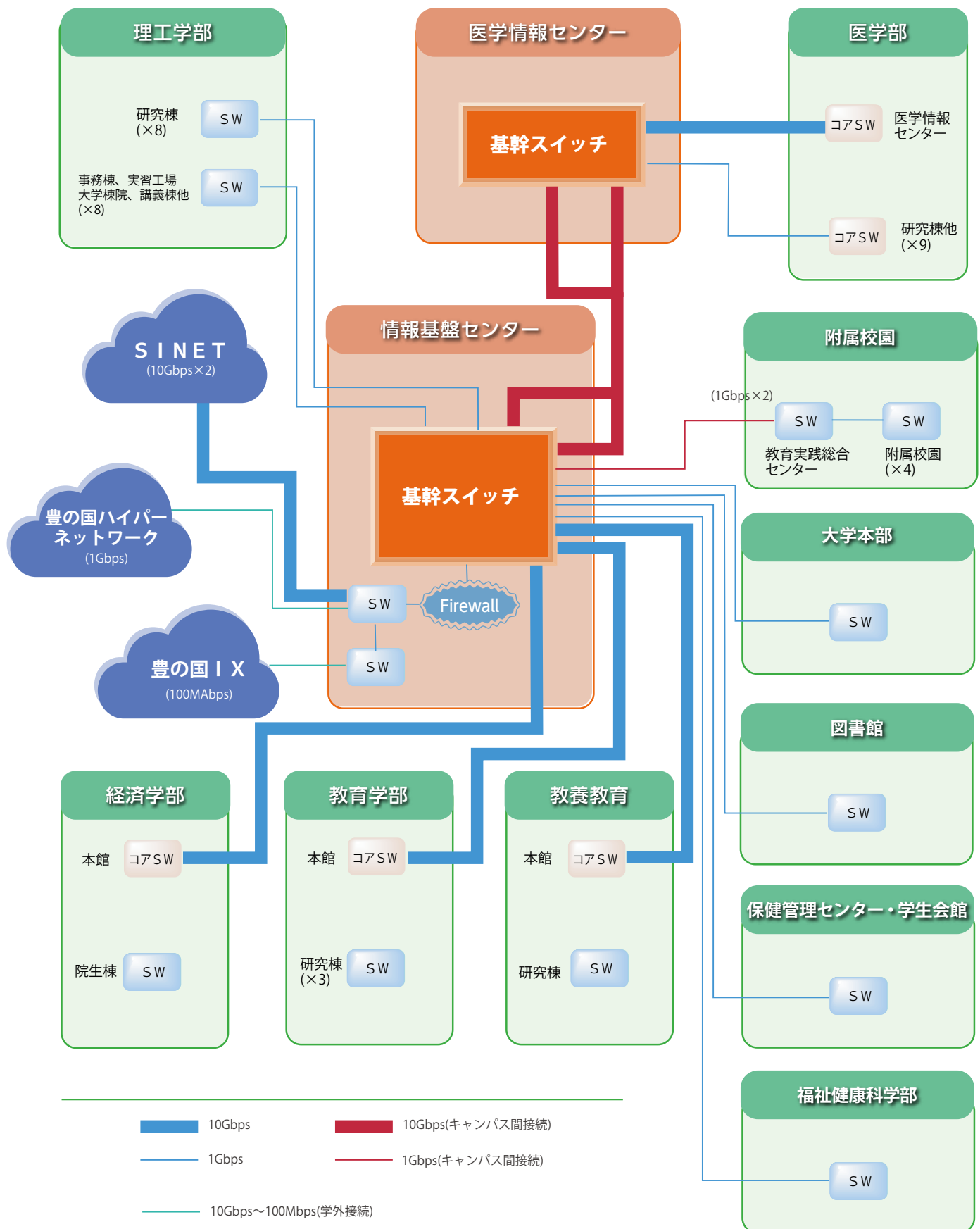
教室別印刷枚数



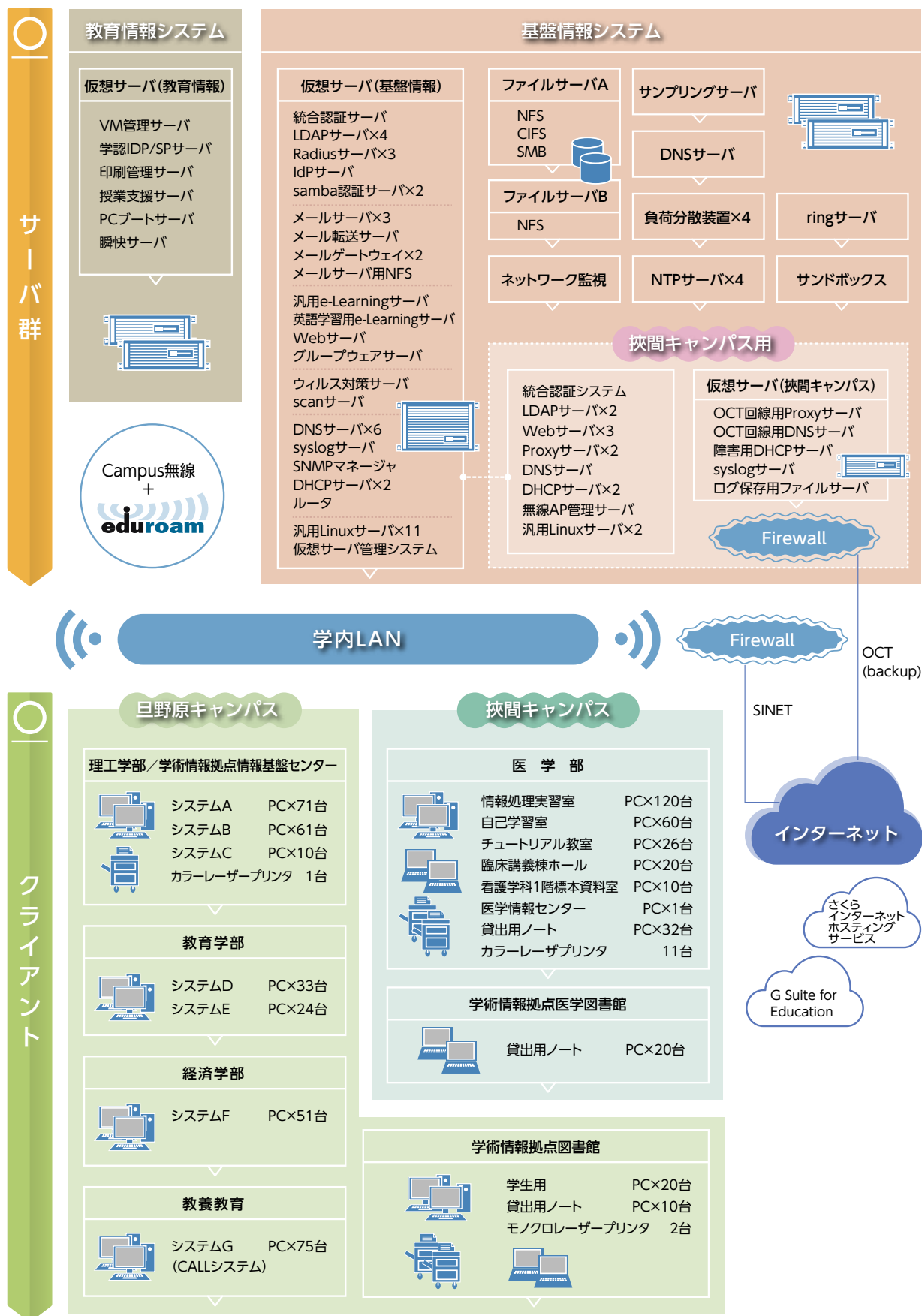
端末平均利用時間：学部別（2017/4/1～）



キャンパスネットワークシステム構成図



基盤システム構成図



委員会名簿(H30.1.1 現在)

学術情報拠点

役職名等	氏名	任期
拠点長	古城 和敬	H29. 10. 1～H31. 3. 31
副拠点長（情報基盤センター担当）	吉田 和幸	H28. 4. 1～H30. 3. 31
副拠点長（医学情報センター担当）	三宅 秀敏	H29. 4. 1～H30. 3. 31

学術情報拠点運営会議

役職名等	氏名	任期
拠点長	古城 和敬	H29. 10. 1～H31. 3. 31
副拠点長（医学図書館担当）	岸田 哲子	H28. 4. 1～H30. 3. 31
副拠点長（情報基盤センター担当）	吉田 和幸	H28. 4. 1～H30. 3. 31
副拠点長（医学情報センター担当）	三宅 秀敏	H29. 4. 1～H30. 3. 31
学術情報室長	中島 誠	H29. 11. 16～H31. 11. 15
情報基盤室長	真鍋 正規	H29. 11. 16～H31. 11. 15
専任教員	吉崎 弘一	H27. 4. 1～
教育学部 教授	平田 利文	H28. 4. 1～H30. 3. 31
経済学部 講師	越智 学	H29. 4. 1～H31. 3. 31
理工学部 教授	工藤 孝人	H29. 4. 1～H31. 3. 31
医学部 教授	石崎 敏理	H28. 4. 1～H30. 3. 31
福祉健康科学部 教授	大杉 至	H28. 4. 1～H30. 3. 31
研究・社会連携部長	安倍 武司	H27. 4. 1～
医療情報部 准教授（医学情報センター）	安徳 恭彰	H29. 4. 1～H31. 3. 31

情報基盤専門委員会

役職名等	氏名	任期
拠点長	古城 和敬	H29. 10. 1～H31. 3. 31
副拠点長（情報基盤センター担当）	吉田 和幸	H28. 4. 1～H30. 3. 31
副拠点長（医学情報センター担当）	三宅 秀敏	H29. 4. 1～H30. 3. 31
情報基盤室長	真鍋 正規	H29. 11. 16～H31. 11. 15
専任教員	吉崎 弘一	H27. 4. 1～
協力教員（情報基盤担当）	池内 秀隆	H29. 11. 16～H31. 11. 15
教育学部 教授	市原 靖士	H28. 4. 1～H30. 3. 31
経済学部 教授	宮下 清	H28. 4. 1～H30. 3. 31
理工学部 教授	園井 千音	H29. 4. 1～H31. 3. 31
福祉健康科学部 助教	川上 健二	H28. 4. 1～H30. 3. 31
医療情報部長	三宅 秀敏	
医学部医学科 教授	谷川 雅人	H28. 4. 1～H30. 3. 31
医学部看護学科 教授	井上 亮	H28. 4. 1～H30. 3. 31
学術情報課長	黒柳 裕子	H29. 4. 1～

情報基盤室

役職名等	氏名	任期
情報基盤室長 協力教員（情報基盤担当）	真鍋 正規	H29. 11. 16～H31. 11. 15
専任教員（情報基盤担当）	吉田 和幸	H28. 4. 1～H30. 3. 31
協力教員（情報基盤担当）	市原 靖士	H29. 11. 16～H31. 11. 15
協力教員（情報基盤担当）	池内 秀隆	H29. 11. 16～H31. 11. 15

情報基盤専門委員会 広報部会

役職名等	氏名	任期
副拠点長（情報基盤センター担当）	吉田 和幸	H29. 1. 1～H30. 12. 31
副拠点長（医学情報センター担当）	三宅 秀敏	H29. 4. 1～H30. 3. 31
学術情報拠点 准教授	吉崎 弘一	H29. 1. 1～H30. 12. 31
医療情報部 准教授（医学情報センター）	安徳 恭彰	H29. 4. 1～H31. 3. 31
教育学部 准教授	甘利 弘樹	H29. 1. 1～H30. 12. 31
経済学部 准教授	柴田 茂紀	H29. 1. 1～H30. 12. 31
理工学部 教授	園井 千音	H29. 1. 1～H30. 12. 31
福祉健康科学部 助教	栄留 里美	H29. 4. 1～H31. 3. 31
医学部 准教授	下田 恵	H29. 1. 1～H30. 12. 31
情報基盤センター技術職員	矢田 哲二	H29. 1. 1～H30. 12. 31

予約できる旦野原図書館施設の概要

○科目別学習支援ブースエリア(6ブース) 1階



設備

- ・机2台、椅子4台
- ・専用書架(6棚)
- ・ホワイトボード付き仕切り

利用例

- ・受講生をグループや時間帯で分けた少人数指導
- ・再試験のための学習支援者(大学院生)による個別指導(補修)
- ・演習問題における課題の支援
- ・レポートにおける課題の支援
- ・卒論などでの教員の個人指導

利用可能人数: 24名以内

○ラーニング・コモンズA、ラーニング・コモンズB 1階



設備

- ・移動可能な机・椅子64人分(A)
- ・移動可能な机・椅子40人分(B)
- ・大型ホワイトボード2台(A)
- ・電子ホワイトボード1台, 専用カラープリンター1台(B)
- ・自立式40インチスクリーン
- ・貸出プロジェクター1台
- ・可動型ホワイトボード8台

利用例

- ・50人以上のグループワーク、ディスカッションを行う授業
- ・図書館資料等を必要とする演習
- ・ポートフォリオ作成の授業
- ・ゼミ単位での授業外学習

利用可能人数: 104名以内

○グループ演習室1、2

2階



設備

- ・移動可能な机・椅子
- グループ演習室1: 36席
- グループ演習室2: 24席
- ・ホワイトボード1台
- ・プリンター1台
- ・天吊り型プロジェクターと吊り下げ型スクリーン(演習室1のみ)
- ・フルHD42型液晶ディスプレイ1台(演習室2のみ)

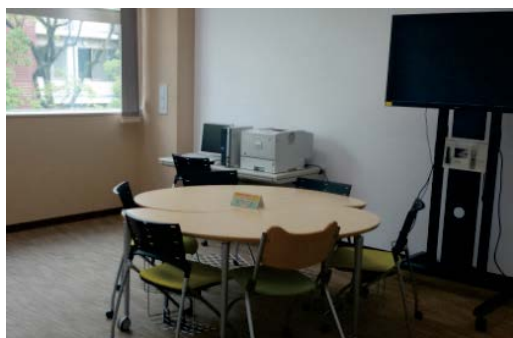
演習室1: 36名以内
演習室2: 24名以内

利用例

- ・20名～30名の授業
- ・卒業論文などの演習

○グループ演習室3、4

2階



設備

- ・移動可能な机・椅子
- グループ演習室3: 12席
- グループ演習室4: 8席
- ・ホワイトボードウォール2面
- ・フルHD42型液晶ディスプレイ1台

演習室3: 12名以内
演習室4: 8名以内

利用例

- ・少人数での授業
- ・ブレインストーミングを利用したゼミ単位の授業外学習

○研究個室(2室)

2階



設備

- ・机1台、椅子1台

利用例

- ・図書館資料やデータベース等を利用した研究

利用可能人数: 各1名

○パソコンエリア 1階



設備	・PC20台、プリンター2台
利用例	・レポート・論文作成 ・情報収集

○談話エリア 1階



利用例	・談話 ・企画展示等の実施
-----	------------------

○多目的エリア 1階



利用例	・企画展示等の実施
-----	-----------

○施設を予約利用しようとする場合には、「予約利用申込書」を旦野原図書館カウンターに提出し、許可を得てください。

○旦野原図書館のラーニング・コモンズ、科目別学習支援ブース、パソコンエリア、グループ演習室及び研究個室の利用申込状況については、Googleカレンダーで確認することができます。その他の施設については、図書館カウンターに問い合わせてください。情報サービス担当(内線:7485)

予約できる医学図書館施設の概要

●ラーニング・コモンズ

1 階



設備

- ・移動可能な机と椅子30人分
- ・移動式ホワイトボード1台
- ・電子ホワイトボード1台
- ・プロジェクター1台
- ・プロジェクター用スクリーン

利用例

- ・グループ学習
- ・研究発表

利用可能人数:30名以内

●グループ学習室（由布1、由布2）

由布1 2 階

由布2 3 階



設備

- ・机2台、椅子8台（由布1）
- ・机3台、椅子12台（由布2）
- ・移動式ホワイトボード
- ・テレビ会議システム（由布1）

利用例

- ・テレビ会議（由布1）
- ・グループ学習
- ・データベースガイダンス

利用可能人数:8名以内（由布1）、12名以内（由布2）

●グループ学習室（高崎 1、高崎 2）

2 階



設備

- ・机 1 台、椅子 6 台
- ・移動式ホワイトボード

利用例

- ・グループ学習

利用可能人数：6 名以内

●グループ学習室（鶴見 1、鶴見 2）

3 階



設備

- ・机 1 台、椅子 6 台
- ・移動式ホワイトボード

利用例

- ・グループ学習

利用可能人数：6 名以内

- グループ学習室は、予約制です。利用を希望する場合は、医学図書館カウンターで、所定の用紙に記入後、予約を入れてください。
- グループ学習室の利用は、2 名以上の教職員、学生、研究員、名誉教授が対象です。
- ラーニング・commonsは、予約をしなくても利用できます。（研究発表等は予約が必要）
- 利用時間は、開館時刻から閉館時刻の 10 分前までです。
- 予約は、利用する日から起算して一ヶ月前から可能です。（例：4 月 1 日に利用する場合には、3 月 1 日から）

大分大学学術情報拠点(情報基盤センター)

利用ガイド(2017 年度)

<http://www.cc.oita-u.ac.jp/>

窓口: 情報基盤センター1 階 事務室(平日 9:00~17:00)
電話: 内線 7985 (外線 097-554-7985)
Mail: center@oita-u.ac.jp
Web: <http://www.cc.oita-u.ac.jp/> (お問い合わせフォーム)

1. 利用者IDカードについて

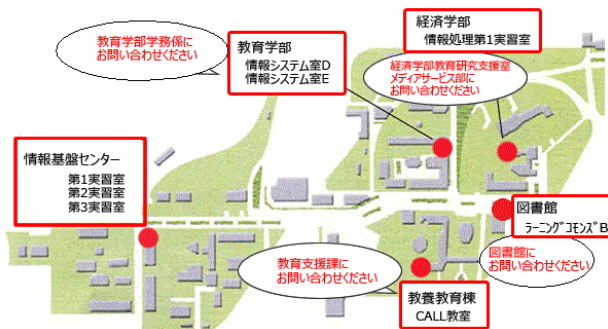
センターから、**利用者ID**と**初期パスワード**を印刷した名刺大の**利用者IDカード**が提供されます。皆さんの所属の学部・学科で配布を受けてください。

初回利用時には、必ず初期パスワードの変更が必要です。実習室、研究室のパソコン等で変更を行います。

学部:	工学部
学科:	電気電子工学科
学籍番号:	090070004
姓名:	大分 高子
利用者ID:	090070004
初期パスワード:	090070004
メールアドレス:	090070004@oita-u.ac.jp

2. 利用者IDとパスワードで利用可能なシステム

2-1. 情報教育システム



【1】実習室パソコン

実習室のPCを起動すると、下図の画面が表示されます。利用者IDカードに記載されている、利用者IDと初期パスワードを入力してください。画面に従い、入力条件に注意し、パスワード変更を行ってください。

【2】プリンタ(オンデマンドプリンタ)

プリンタは、図書館(2台)、情報基盤センター1F 印刷室(1台)に設置しています。実習室または図書館のパソコンから、どちらのプリンタにも印刷をすることができます。

以下の方法で印刷できます。

■印刷方法

- (1) プリンタは図書館(libpr)または情報基盤センター(itcpr)のどちらかを選択します。必要なポイントは同じです。図書館のプリンタはモノクロ A4 サイズのみとなっています。
- (2) プリンタが設置されている場所に行き、プリンタ操作端末にログインします。次の3つの方法のいずれかでログインします。

- (方法1) 学生証を磁気カードリーダに通す。
- (方法2) 登録済み Felica カードを IC カードリーダにかざす。
- (方法3) 利用者IDと**変更した**パスワードを手入力する。
- (3) ログインすると保留中のジョブ・リストが表示されます。印刷したいドキュメント名を選んで、印刷してください。
- (4) ドキュメントが印刷され、印刷ポイントが減算されます。

注1) 印刷ジョブは24時間放置していると自動的に削除されます。

注2) 何らかの原因で印刷できなかった場合は、**すぐに図書館カウンターまたは情報基盤センター事務室までご連絡ください！** 放置していると、障害が解消された後に出力されてしまう場合があります！

注3) **用紙トレイを開けたり電源を触ったりしないでください！** エラーメールが送信されます。

注4) 印刷には印刷ポイントが必要です。詳しくは情報基盤センターHPをご覧ください。

http://www.cc.oita-u.ac.jp/modules/inpico/index.php?content_id=3

2-2. 電子メール(DEEPMail)

【1】電子メールアドレスについて

あなたの利用者ID@oita-u.ac.jp

【2】DEEPMail とは

DEEPMail は、全学での推奨メールサービスです。ブラウザ(閲覧ソフト)から利用できる電子メールソフトです。どのパソコンやモバイル端末からでも DEEPMail の機能を利用できます。

【3】DEEPMail の利用方法

ブラウザを起動し、情報基盤センターHPの「WEB メール」をクリックします。

情報システム【一般】

Webメール A

利用者IDと**変更した**パスワードを入力し、ログインしてください。

注1) サーバでのメールの保管期間は400日間となっています。保管用のフォルダを作成し、受信トレイからメールを移動すれば、在学期間中はサーバにメールを保存しておくことができます。

注2) 携帯電話への着信通知設定をしておくと便利です。

注3) 添付ファイルは、マナーとして5MB 以内にしましょう。5MB を超えるファイルは、DEEPMail オプションの「Web ファイル機能」を利用しましょう。

2-3. カレンダー/ドライブ(G Suite)

【1】カレンダー/ドライブの利用方法

ブラウザを起動し、情報基盤センターHPの「Google カレンダー」/「Googleドライブ」をクリックします。

情報システム【一般】

Googleカレンダー
Googleドライブ B

利用者IDと**変更した**パスワードを入力し、ログインしてください。

注1) カレンダーの詳細は以下をご覧ください。

http://www.cc.oita-u.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=146

注2) ドライブの詳細は以下をご覧ください。

http://www.cc.oita-u.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=150

2-4. 学習支援システム

【1】Moodle(授業補助教材)の利用方法

ブラウザを起動し、情報基盤センターHPの「Moodle」をクリックします。



利用者IDと**変更した**パスワードを入力し、ログインしてください。

＜コンテンツについて＞

コンテンツとして、「INFOSS 情報倫理」および授業で利用するものがあります。「INFOSS 情報倫理」は、大分大学に所属する人は誰でも利用できます。早い機会に学修して、情報セキュリティの基礎を身につけておきましょう。授業で利用するコンテンツに関しては、授業担当の教師より指示があります。

【2】NetAcademy(英語教材)の利用方法

ブラウザを起動し、情報基盤センターHPの「NetAcademy」をクリックします。



利用者IDと**変更した**パスワードを入力し、ログインしてください。

＜コンテンツについて＞

コンテンツとして、「総合英語トレーニング中級コース」、「TOEIC L&R テスト 500・600・730 点突破コース」、「英単語パワーアップコース 医学・医療編」の3コースがあります。本教材を利用して、TOEIC 等、英語の検定試験にチャレンジしてください。なお、英語の講義で、本システムを利用することがあります。その際は、教師の指示に従ってください。

2-5. 無線LAN

【1】無線LANのアクセスポイントと設定値について

ESSID	暗号化	事前共有キー
2010OITA1 2010OITA2 2010OITA3 2010OITA4 2010OITA5	WPA2/AES	OITAUNIVERSITY1592 (半角大文字です！)
eduroam	WPA2/AES	-

※設定方法は各パソコン等の無線 LAN の説明書をご覧ください。

自分のパソコンを大学で使用する場合は、無線LANで接続できます。本学の「キャンパスネットワークシステム」では上記のESSIDのアクセスポイントが設置されています。これらのアクセスポイントは学内各所に設定されていますので上記の設定値を参照して利用してください。利用の都度、認証サーバにより利用者IDと**変更した**パスワードで認証を行います。

注1) 利用するパソコンはワクチンソフトが必須となっています。

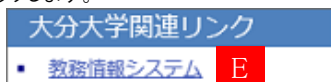
注2) モバイルルータ、テザリングなどは、アクセスポイントとの干渉を防ぐため、サービスの停止または電源を切るなどしてください。

注3) eduroamは事前共有キーの入力は不要です。利用者IDと**変更した**パスワードを入力して接続します。

2-6. 教務情報システム(CampusSquare)

【1】教務情報システム(CampusSquare)の利用方法

ブラウザを起動し、情報基盤センターHPの「教務情報システム」をクリックします。



利用者IDと**変更した**パスワードを入力し、ログインしてください。

注1) 履修登録や成績照会などのシステムです。

注2) システムに関するお問い合わせは、教育支援課へ。

3. システム利用上の注意

3-1 情報教育システム室(実習室)の利用について

- (1) 教育・研究目的以外の使用はできません。
- (2) 授業時間中は受講者以外の立入は禁止です。
- (3) 埃などから機器を守るため、窓は常に閉めておくようにしてください。
- (4) 飲食は指定された場所をお願いします。
- (5) 自習利用時間中であっても、携帯電話による通話はしないでください。
- (6) パソコン等使用機器に異常があった場合は、事務室まで速やかに連絡してください。(事務室 554-7985)
- (7) パソコン等へのソフト組み込みや許可されていない機器の接続は禁止です。また、各自のドキュメントフォルダ以外には、ファイルを作成しないでください。

3-2 電子メールの利用について

- (1) 自分のメールアドレス(利用者ID)を他人に使用させてはいけません。
- (2) 不審な添付メールは開かないようにしてください。
- (3) 大容量のファイルをメールに添付しないでください。(5MB 以内。ただし携帯電話へ送信する場合は、1MB 以内。)
- (4) 不要メールは削除、必要なメールはファイルに保存するなどして既読メール、送信済メールは随時サーバから削除するようにしてください。

3-3 インターネットの利用について

- (1) 出所が定かでない外部記憶メディアをパソコンに挿入しアクセスすることは、ウィルスに感染している場合もあり大変危険です。中身を確認する前にウィルスチェックを行うようにしてください。
- (2) インターネットは匿名ではありません。自分の行動に責任をもって利用するように心がけてください。

3-4 パスワードの管理について

- (1) センター発行のパスワードは、銀行の暗証番号と同じように大切なものです。定期的に変更して、管理には十分注意してください。
- (2) 万が一、パスワードを忘れたら、学生証持参のうえ、本人が情報基盤センター事務室までお越しください。

4. 情報基盤センターホームページ

<http://www.cc.oita-u.ac.jp/>



全ての情報は情報基盤センターホームページにて、詳細を公開しています。実習室のPCにログイン後表示される「お知らせ」・「FAQ」も随時更新していますので、確認しましょう！(一部、学内制限となっています。ご注意ください。)



各種申請書

情報基盤センターが提供する各種サービスを利用するにあたっては、センターの承認を得るために利用申請をする必要があります。

利用申請は、1.申請書提出、2.Web からオンライン申請、3.メールで申請の3通りに分かれています。

申請書様式は以下から入手できます。

- 情報基盤センターWeb ページ <https://www.cc.oita-u.ac.jp/> から、各種申請書のフォームまたは PDF ファイルへのアクセス

(1)「プリンタ利用申請書」(様式第1号)

サ ー ビ ス： 情報基盤センターの大判プリンタ、情報教育システム室（A～F）学生用プリンタ（印刷室・図書館）を利用することができます。

申請対象者： 本学教職員

備 考： 詳しくは『情報基盤センターのプリンタ利用に関する手引き』をご覧ください。

(2)「固定 IP アドレス申請書」(様式第2号)

サ ー ビ ス： ネットワークに情報機器を接続するため、固定 IP アドレス／ホスト名の新規割当て、変更、終了（抹消）を行います。

申請対象者： 本学教職員

備 考： 変更の場合、その内容を具体的に備考欄に記述してください。設置者を変更する場合は新管理者を申請者として申請し、現管理者の署名、捺印を備考欄に記述してください。

(3)「実習室利用申請書」※Web フォーム

サ ー ビ ス： 本学の教育課程に基づく授業に関連した情報処理教育で、情報基盤センター施設を利用することができます。

申請対象者： 授業を担当する本学教職員
学外者が授業を担当する場合は、受入責任者

備 考： 毎年1月頃に翌年度の定期利用の受付を行います。情報教育システム室の利用時間が競合する場合には、利用時間を移動するなどセンターで調整することがあります。1月末をめぐり調整を行い申請者に通知します。なお、調整終了後は先着順で受付を行います。

(4)「Moodle コース作成申請書」※Web フォーム

サ ー ビ ス： Moodle でシラバスにはないコースを作成することができます。

申請対象者： 本学教職員
学外者がコースを開設する場合は、受入責任者

備 考： シラバスに登録されている科目は自動的にコースが作成されます。コースは年度毎に管理されますので、年度更新する場合は、新規申請で新コースを開設してください。
各種著作物のデータを扱う際には、著作権を侵害しないよう十分に注意してください。

(5)「ワクチンソフト利用申請書」※Web フォーム

サ ー ビ ス： ワクチンソフト Symantec Endpoint Protection を利用することができます。

申請対象者： 本学教職員

備 考： ワクチンソフトを最新の状態で使用することは、学内 LAN に接続するための必須条件です。適切な設定を行い、常時ウイルスのチェックを行ってください。

(6)「ホスティングサービス利用申請書」(様式第 3 号)

サ ー ビ ス： 本センターが契約している学外のホスティングサービスを利用するサービスです。Web ページなどのコンテンツをにおいて情報発信のために利用することができます。

申請対象者： 本学教職員
※管理者（申請者）は、十分な知識・技術がある方に限ります。

備 考： 教育研究利用を目的とする「組織」での利用を原則とし、個人での申請はできません。
サーバの管理権限は情報基盤センターが所有し、申請者は本センターが発行する管理者権限の範囲で構築を行います。

(7)「ファイアウォール開放設定申請書」(様式第 4 号)

サ ー ビ ス： 学内にサーバを設置し、学外に向けて公開するなど、ファイアウォールでの学外との通信制限を解除することができます。

申請対象者： 本学教職員

備 考： 開放するポート番号によっては、「理由書」の提出が必要な場合があります。

(8)「サブドメイン名申請書」(様式第 5 号)

サ ー ビ ス： サブドメイン名の割当てを受けることができます。

申請対象者： 本学教職員

備 考： 本学を代表するサーバとなりますので、命名の際はご注意ください。申請・利用にあたっては本センターが定めるサブドメイン運用方針にしたがってください。

(9)「サブネットワーク申請書」(様式第6号)

サ ー ビ ス : 学内の建物内に独自に支線ネットワークを敷設し、IP ネットワークアドレスの割当てを受けることができます。

申請対象者 : 本学教職員

備 考 : DHCP サーバを利用して情報機器を支線ネットワークに接続するときは、IP アドレスの必要個数を申請し、割当てを受けてください。支線ネットワークの運用管理及び保守は各建物を管理する部局が行い、複数の部局にまたがるときは、その部局間で協議し責任部局を決めるものとします。支線ネットワークの維持、設置及び変更に要する経費は、当該部局が負担するものとします。

(10)「無線 LAN アクセスポイント設置申請書」(様式第7号)

サ ー ビ ス : 無線 LAN アクセスポイントを設置することができます。

申請対象者 : 本学教職員

備 考 : 必ず暗号化の設定をして運用を行ってください。WEP、TKIP、AES と呼ばれる暗号化方式がありますが、WEP はセキュリティ強度が弱く、アクセスポイントが不正に利用される可能性があるので使用しないでください。また、WEP しか利用できない機器は AES 対応の機器に更新するよう努めてください。

(11)「一時インストール申請書」(様式第8号)

サ ー ビ ス : センターの管理するシステムへ教育用ソフトウェアをインストールすることができます。

申請対象者 : 本学教職員

備 考 : 当該ソフトウェアが有償の場合、その経費負担者の署名、捺印を必要とします。遅くとも当該ソフトウェアの使用開始の1ヶ月前までに申請してください。

(12)「メーリングリスト申請書」(様式第9号)

サ ー ビ ス : メーリングリストの作成・管理をすることができます。

申請対象者 : 本学教職員

備 考 : DEEPMail で登録したメーリングリストの管理ができるようになります。

(13)「利用者 ID の利用停止申請書」※ Web フォーム

サ ー ビ ス : 利用者 ID の利用を終了します。

申請対象者 : 本学教職員

備 考 : 退職などで利用を終了される方はすみやかに申請願います。なお、定年退職される方は事前にメール等でご連絡いたします。

(14) 「ALC NetAcademy Next 利用申請・管理者申請」※Web フォーム

サービス:	英語学習用 e-Learning システムを自己学習のために利用することができます。また、管理者申請を行うと、授業などで利用するためにクラスを作成することができます。
申請対象者:	本学教職員
備考:	内容に関するサポートは行っていません。学生は利用者 ID 発行時に自動的に登録されます。

(15) 「電子証明書の発行申請書」※メール

サービス:	国立情報学研究所の UPKI 電子証明書の発行サービスを利用して、サーバ証明書を取得することができます。
申請対象者:	本学教職員
備考:	本学が保有する oita-u.ac.jp ドメインのサーバ証明書について、無償で利用することができます。

挟間キャンパス（医学情報センター）の利用案内

挟間キャンパスでの基盤情報システムの利用のしかたは、医学情報センターのホームページに記載しています。 <http://www.med.oita-u.ac.jp/mic/>

1. 利用申請

(1) 利用者（個人）登録申請

基盤情報システムを利用したい方は、オンラインで利用申請を提出し許可を受けてください。

申請が承認・登録された後申請者に ID とパスワードを学内便で送付します。学部学生・大学院学生は入学時に学生用 ID を発行しますので申請する必要はありません。

(2) 利用者（グループ）登録申請

学会やサークルなどのメールアドレスを作りたい場合はこの申請をしてください。

(3) 端末接続申請

パソコンやプリンタ等の機器を LAN に接続したい場合はオンラインで設置申請を提出し、許可を受けてください。「挟間キャンパスの情報ネットワークに接続する機器の満たすべき技術的基準」を遵守してください。セキュリティ対応が行われていないパソコンは接続を許可しません。

(4) ワクチンソフト利用申請

ワクチンソフトの利用は必須です。基盤情報システムでワクチンソフトを無償で提供しています。オンラインで申請をするとダウンロードとインストールのしかたがメールアドレス宛に送付されます。

(5) ワンディアアカウント（ゲスト ID）申請

来客や研究会、短期留学生などで持込んだパソコンを LAN に接続するためのアカウントを発行します。職員が代理でオンラインで申請すればメールで ID とパスワードがリアルタイムに送付されます。

2. ネットワーク接続方法

(1) ユーザ認証

1 日 1 回 LAN 接続時に ID とパスワードで認証を行って利用します。

(2) 端末認証

端末接続許可あるいはワンディアアカウントがないと LAN に接続できません。

(3) 無線の利用

挟間キャンパスのほぼ全域で無線 LAN が利用できます。

(4) 利用制限

挟間キャンパスから学外への利用は HTTP と HTTPS だけに制限されています。またキャンパス外に接続するときにはプロキシを経由します。キャンパス外から内部の機器への接続はできません。

3. 利用相談

ネットワーク・メールトラブル・ウイルス駆除等のご相談は内線[6231, 6078]またはメール(micenter@oita-u.ac.jp)にてお願いします。

4. 学生が利用できるパソコン

情報処理実習室 120 台、自己学習室 60 台、チュートリアル教室 26 台

臨床講義棟ホール 60 台、臨床大講義室 60 台、看護学科棟資料室 10 台

医学図書館 20 台、貸出用ノートパソコン 32 台

Moodle よくある質問と回答

2017 年 3 月より学習支援システム Moodle の運用を開始しました。これまでに寄せられた質問と回答の一覧です。詳細は Moodle ログイン後の「ダッシュボード」→「サイトページ」→「よくある質問【[Moodle の利用について](#)】」をご覧ください。こちらのページは随時更新中です。

1. Moodle 全般について

Q. 学習支援システム Moodle はどのようなシステムですか？

A. 2017 年度から、国内外で広く使われている学習支援システムの Moodle（ムードル）のバージョン 3.1 をご利用になれます。Moodle は Web ブラウザ上で動作し、従来の WebClass とほぼ同等の機能を実装しています。Moodle の詳細は、[コチラ](#)よりご参照ください。

Q. 教務情報システム（CampusSquare）とのコース・履修者情報の連携は？

A. Moodle でも教務情報システムと連携し、コース・履修者情報をシステムに反映します。なお、教務情報システムの情報に基づき Moodle に登録されたコース情報は、後日、教務情報システムで修正しても、Moodle には反映されません。Moodle のコース情報の修正が必要な場合は、ページ最下部の「お問い合わせ」から、情報基盤センターまでお知らせください。

Q. 授業支援ボックスは利用できますか？

A. Moodle でも、授業支援ボックスを利用できます。

Q. INFOSS 情報倫理、情報処理技術者試験の教材は利用できますか？

A. これらの教材は、Moodle で利用できます。

Q. ログインに必要なアカウントは？

A. Web メール等にも用いている統合認証アカウントでログインします。

Q. Moodle を利用するのに、何か手続きは必要ですか？

A. 教務情報システム（シラバス）に登録される 2017 年度開講科目については、Moodle に当該コースを自動的に開設し、それらのコースに履修者を登録します（センターへの利用申請は不要）。それ以外での Moodle 利用については、情報基盤センターの Web ページからの利用申請が必要です。

Q. Moodle で授業履修者の出席管理をすることはできますか？

A. 可能です。学内だけなど IP アドレスの制限方法は[コチラ](#)を参照ください。

Q. コース担当者からコース履修者に電子メールで連絡をとることはできますか？

A. コース担当者はコースを履修する学生に対して、大学が提供する学生のメールアドレス宛てにメールを送信することが、システム上の操作で可能です。

Q. Moodle をスマートフォンから利用することができますか？

A. スマートフォンの Web ブラウザから Moodle にアクセスすることで、その多くの機能

を利用することが出来ます。

Q. 学生を教員として登録できますか？

A. 教員として登録すると

- ・コースに登録したコンテンツや設定を変更することが可能となります
- ・コース内の成績を含む情報にアクセスすることが可能になります
- ・参加者一覧と参加者の情報（履修情報など）にアクセスすることが可能となります

このため、原則として学生を教師として登録することはしないでください。

詳しくは情報基盤センターまでご確認ください。

2. ファイル容量について

Q. 学生が提出する課題ファイルに容量制限はありますか？

A. 20MB/ファイルを上限としています。なお、20MB 未満のファイルであれば、複数提出することも可能です。

Q. 課題やフォルダ以外でアップロードするファイルに容量制限はありますか？

A. 画面上で特に容量の記載がない場合は、200MB/ファイルを上限としています。

Q. コース内で利用するファイルの合計サイズに上限はありますか？

A. ありません。ただし、サーバの保存領域を圧迫しないように、適切なファイル利用にご協力ください。

3. 利用方法について

Q. コースに教員や学生を手動で追加できますか？

A. コースの教員は別のユーザを教員や、TA（編集権限のない教師）、履修生として登録することができます。詳しくは、[コチラ](#)をご参照ください。

Q. Moodle にログインしても、自分が担当するコースが表示されない

A. 教務情報システムに登録された科目については、同システムの情報に基づき Moodle にコースを作成し、教員アカウントを登録しています。教務情報システムに登録されている教員が、Moodle 上で表示されない場合は、情報基盤センターにご連絡ください。なお、教務情報システム上で登録されていないアカウントを、Moodle のコースに教員として登録する方法は、上記 1.をご確認ください。

Q. 教員がコースに登録できる活動 / リソースには、何がありますか？

A. 現在、以下のものがご利用になれます。特に異なる Moodle から教材をインポートする時は、お使いの活動 / リソースが本学の Moodle でも利用できることを、事前にご確認ください。

活動：課題 / 小テスト / アンケート / 投票 / フォーラム / 先進フォーラム / 自動出欠 / チャット / 用語集 / WIKI / レッスン / SCORM パッケージ
リソース： ページ / ブック / ラベル / ファイル / フォルダ / URL

Q. 課題を一括評点することができますか？

A. 評点ワークシートのダウンロードとアップロードを使って一括評点することができます。

詳しくは、[コチラ](#)をご参照ください。

Q. 学生に点数など異なる内容を一齐に通知することができますか？

A. ダミーの課題を作成することで学生ごとにフィードバックを一齐に返すことができます。

詳しくは、[コチラ](#)をご参照ください。

Q. 学生にメッセージを送信するにはどうしたらよいですか？

A. コースの教員から学生にメッセージを送信することができます。

詳しくは、[コチラ](#)をご参照ください。

Q. 課題に学生が提出したファイルや入力したオンラインテキストを、一括ダウンロードすることはできますか？

A. 教員アカウントで「課題」を表示し、「評価操作」から「すべての提出をダウンロードする」を選択することで可能です。また、オンラインテキストのみであれば、評価ワークシートの一括ダウンロードでも可能です。詳しくは[コチラ](#)をご参照ください。

Q. Moodle からダウンロードした圧縮ファイルを展開したら、日本語のファイル名が文字化けしていました。ファイル名を適切に表示できますか？

A. 圧縮ファイルを展開する時に用いるソフトウェアが、Unicode に対応していないと文字化けします（例えば Lhaplus など）。Windows の標準機能で展開した時にも文字化けする場合（Window7 以下では文字化けすることが確認されています）は、[CubelCE](#)（無料）などの Unicode に対応した展開ソフトをご利用ください。

Q. 複数のファイルをアップロードしましたが1個しか表示されないのはなぜですか？

A. 「ファイル」モジュールは、複数のファイルをアップロードして、メインとして選択した1個のファイルのみ表示される機能となっています。バージョン管理をしたい場合に有効となっています。複数のファイルを1つのモジュールとして見せたい場合は、「ブック」または「フォルダ」モジュールをお使いください。

Q. 教材に説明を入力しましたが表示されません

A. 「コースページに説明を表示する」にチェックをつけると表示されます

Q. 教員だけが見ることのできる教材を置くことができますか？

A. 教材またはセクションに利用制限をつけることで教員だけに見せることができます。
利用制限は、ユーザプロファイルのメールアドレスで個々に追加する他、
あらかじめ教員グループを作成することで、グループで指定することも可能です。
詳しくは、[コチラ](#)をご参照ください。

Q. 同一授業のコースが2つ登録されている場合、1つのコースとして管理できますか？

A. コースメタリンク機能を使うことで2つのコースの受講者をどちらか1つのコースに
集めてコースを管理することができます。利用する学生にも、実際に利用されているコ
ースのみを表示することができます。

本機能については、試験導入とし、以下の条件のコースのみ対応いたします。

- ・シラバス連携科目で同時間に開講し、同教員が担当する同名の2コース

希望される場合は情報基盤センターまでお問合せください。

Q. 出欠管理のクラス分けで「クラスなし」と「クラス不明」の違いは何ですか？

A. 「クラスなし」はデフォルトのクラスになります。特にクラス分けを行わない場合は
こちらのままで全員このクラスになります。

「クラス不明」は所属していた授業クラスが削除された場合に、学生の所属クラスが「ク
ラス不明」となります。

別のクラスを作成して全員を参加させることで「クラス不明」を解除することができます。

Q. 他のコースからコンテンツをコピーすることができますか？

A. インポート機能を使って、自分が担当しているコース間でコンテンツのコピーが可能
です。手順については、Moodle 利用者マニュアル【教員用】の4.コースの管理：「コー
スをインポートする」を参照してください。なお、コンテンツのコピーに、バックアッ
プ／リストアは使わないでください。設定によってメンバー情報が削除されることがあ
ります。また小テストの問題バンクについては、[コチラ](#)の方法でも可能です。

Q. Moodle に置いたファイルが Internet Explorer を使って開けない場合があります

A. ダウンロードを強制することで、開ける場合があります。[コチラ](#)を参照ください。

Q. 登録したコンテンツが学生から見えないのですが、どうしたら見せることができますか？

A. 非表示となっているコンテンツを表示に変更するには、コンテンツの「設定を編集す
る」をクリックし、「モジュール共通設定」の中の「可視性」を**表示**に変更します。

※セクションを非表示にした状態でコンテンツを登録すると、デフォルトの状態ではコ

ンテンツも非表示となります。後からセクションを表示に変更しても、コンテンツは非表示のままとなります。

※コンテンツを表示にしても、セクションが非表示の場合、学生には見えませんのでご注意ください。

Q. コース内のレッスン（セクション）の順番を変更することができますか？

A. 編集モードにしてレッスンブロックをドラッグしていただくことで順番を変更できます。また、現在のレッスン（セクション）を一番上に表示することも可能です。その方法については[コチラ](#)を参照ください。

Q. 小テストの問題をグループごとにシャッフルすることができますか？

A. 問題バンクのカテゴリとランダム問題を使うと、かたまりでランダムに問題を出すことができます。[コチラ](#)を参照ください。

Q. 小テストの問題動作とレビューオプションの種類の違いは何ですか？

A. 各種問題動作のオプションについては[コチラ](#)を参照ください。
レビューオプションについては[コチラ](#)を参照ください。

Q. コース名を変更することはできますか？

A. 教務情報システムから連携されたコースのコース名は変更できません。別途コース申請で作成したコース名の変更は、情報基盤センターまでお問合せください。
なお、コースを開いた先頭に表示されるセクション名については、教員権限で変更が可能です。セクション名の変更方法については、[コチラ](#)を参照ください。

Q. 順不同で解答する記述式の問題を作ることができますか？

A. Moodle の小テストでは複数の解答がある記述問題を穴埋め式以外で作成することができません。代わりとして使われている方法をご紹介します。[コチラ](#)を参照ください。

Q. 学生がコースには入れますが、コンテンツを見ることができません。なぜですか？

A. 学生がコンテンツを見るためには、受講者ロールが必要です。学生に「受講者」ロールがついていることを確認してください。ロールの確認は、「コース管理」→「ユーザ」→「登録済みユーザ」で確認します。「受講者」ロールがついていない場合は、ロール列をクリックして「受講者」ロールを割り当ててください。

Q. 匿名のアンケートで、非回答者を知ることはできますか？

A. 残念ながら、匿名のアンケートでは回答者や非回答者を知ることはできません。別にアンケート回答チェック用のアンケートや投票を使うことで疑似的に作ることができます。確認用に投票機能を使った例を[コチラ](#)で紹介しています。